明治三十八年四月二十三日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百八拾五號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十日發行
內務省許可明治三十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百八十五號目次

五月例會廣告

來五月六日第一土曜日午後一時半より神田區一ッ橋通り女子職業學校内に於て本會の例會を開く(晴雨共)御知友御誘引御來會有之度候也

當日に本會總裁殿下の御臨場を仰ぎ奉り候(衣服は勤めて御質素の事)

一所感　　　　　ミセス、コーツ

一演題未定　　醫學士　樫田龜一郎君

本會事務所は去二月左に移轉致し候に付總ての御用向は左に御申越下されたし舊番地へ宛御差出しの御書状も少からず候に付此段申上置候也

東京市牛込區上宮比町八番地

爲替振込(牛込築土八幡町郵便扱所)

明治三十八年四月

大日本婦人衛生會

會員諸姉に告ぐ

日露兩國の交砲火を以て相酬ゆるに至りてよりはや十月あまりとはなりぬ。國運めでたくして戰はつねに我に利あれども其前途は尙はるかに遠し國をこぞつて共に力を致さむこと國民たるものゝつとめなれば國の爲め親をすて妻子をすてゝ進んで難にあたれる同胞の上を深く思ひやりて自らの力の及ぶかぎりはこれ等の人々の爲めに盡さむことはまた多く言葉を要せざる處なり然りながら世界に數多からぬ强大國を敵として戰ふことにしあれば一と度戰ふ每に我同胞の傷き斃るゝものゝ甚だしきは萬を以て數ふるに至らんこれが爲め本國に送らるゝ傷病者がいたてになやみて呻吟するさまのいかばかりかなさけなかるべき本會もかねてこれ等の人々の爲め慰の一品たりとも送らばやと思ひ居たる折柄近頃日本赤十字社にては病者に尤も必要なる帽子の夥しく不足せるよしを聞きければ是を寄送することは誠に本會の相應しき事業と思ひ早速臨時會を開きて評議すべかりしも至急を要するの際已むなく役員會議にて種々評議の末本會其本會中より金貳百圓を出して同社へ寄附したり然りながら尙戰況の進むと共に傷病者も益〻增加することなればこれ誠に九牛の一毛にも若かさるを思ゆればひろくこれを會員諸姉にはかり一個たりとも多くこれが不足を補はむと欲してこゝに左の定めを設く希くは諸姉幸ひに多少の同情をよせられむ事を（つゞく）

一、本會の傷病者に對する帽子寄送は日本赤十字社本部とす

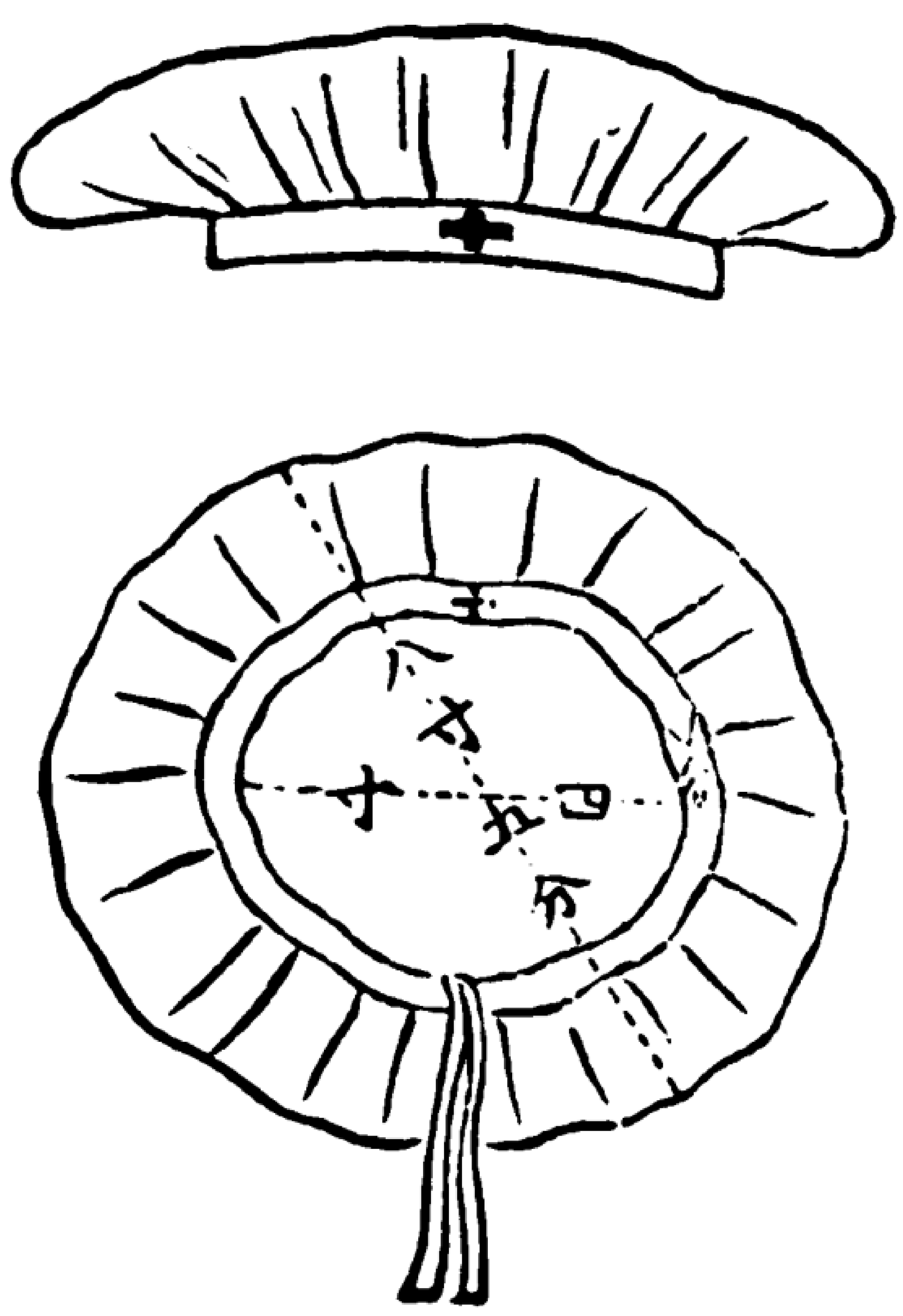
二、寄附者は（現品、現金、）何れとも御隨意本會事務所（牛込區上宮比町八番地）迄御差出しあれば本會は直ちに之を取纏めて寄附の運びをなす

三、寄附の金品に對しては本會事務所より受領證を交附すべきも赤十字社よりの受領證は一と纏めにしたるものなれば一々交附せず

四、本會は戰爭終局まで此事業を繼續し何時にても多少に拘はらず其取扱を快諾す

五、寄送者諸姉の人名其他右に關する要用の件は本會雜誌を以て報告す

六、寄送の帽子は左の雛形により調製の事



調製代價は本フランチル綿フランチルの別により多少の相違はあれども凡廿錢以上卅五錢位なり

明治三十七年十一月

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も／＼衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆婦人のもつばら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相寄て起り婦人の社會も漸く其面目を改めんとするは喜ばしきことなりされども此の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其賛成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條 目的 本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條 本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會するを得●第四條 入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條 會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條 男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とする其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條 會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條 退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條 本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條 本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條 會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て[illegible]之を選擧し書記は[illegible]會長之を命ず●第十二條 [illegible]

[illegible]ある人々に衛生上の講義演説談話を囑托し會員をして臨聽せしむるものとす●第十八條 會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に致し講義演説を聽聞せしむることを得（但衣服は總て質素たるべきこと）●第十九條 [illegible]●第二十條 [illegible]●第廿一條 [illegible]●第廿二條 [illegible]本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條 [illegible]●第廿四條 [illegible]に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會 ●第廿五條 地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會の承認を得て支會を設立することを得●第廿六條 [illegible]●第廿七條 [illegible]●第廿八條 [illegible]●第廿九條 [illegible]

第三十條 本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配付すべし●第卅一條 會員又は會員外の者にして金員若くは其物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を雜誌に登錄し尚ほ會雜誌を以て報告すべし●第卅二條 會費の分は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證[illegible]として別に送信料を添へらるべし（郵券送一割増）●第卅三條 會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込揚場町郵便局）へ拂出しあるべし●第卅四條 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

事務所 東京市牛込區上宮比町八番地 私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁 東伏見宮依仁親王妃 周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 濱尾作子

幹事（いろは順）

- 鳩山春子
- 仝 羽田三緒子
- 仝 岡田德子
- 仝 高木かう子
- 仝 山本多喜子
- 仝 松平芳子
- 仝 三浦教子
- 仝 石川貞子
- 仝 岩下ゆか子
- 仝 濱田捨子

評議員

- 長谷川仲子
- 仝 仁禮壽賀子
- 仝 西升子
- 仝 穗積歌子
- 仝 土肥多越子
- 仝 緒方悦子
- 仝 岡山とし子
- 仝 小川孝子
- 仝 男爵夫人 加藤鈴子
- 仝 片山繁子
- 仝 吉武[illegible]子
- 仝 丹波貞子
- 仝 高橋孝子
- 仝 田村きよ子
- 仝 相馬隆子
- 仝 男爵夫人 南部[illegible]子
- 仝 中濱芳子
- 仝 子爵夫人 松井正子
- 仝 片[illegible]滋子
- 仝 三宅藤子
- 仝 宮木樂子
- 仝 宮下吹子

●支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別賛成員

（●は本會及支會に於て講演せられし諸氏）

醫學博士 ●入澤達吉君　理學博士 ●飯島魁君　ドクトル ●伊澤[illegible]君　●色川[illegible]君　醫學士 ●伊東[illegible]君　ドクトル ●飯盛挺造君　醫學博士 ●伊藤[illegible]君　理學博士 ●石川千代松君　[illegible] ●岩井禎造君　醫學士 石原久君　醫學士 ●[illegible]一君　貴族院議員 濱尾新君　醫學博士 ●濱田玄達君　法學博士 ●鳩山[illegible]君　東京 芳賀[illegible]君　醫學博士 ●長谷川[illegible]君　●長谷川[illegible]君　●小原[illegible]君　新潟 ●林[illegible]君　小兒科 ●佐藤[illegible]君　醫學士 ●緒方[illegible]君　醫學士 ●堀内[illegible]君　步兵中佐 ●土肥[illegible]君　醫學博士 ●岡田和一郎君　醫學博士 ●大澤謙二君　醫學士 ●大西[illegible]君

醫學博士 ●大澤岳太郎君　醫學博士 ●恩田重信君　[illegible] ●若杉[illegible]君　ドクトル ●加藤[illegible]君　醫學博士 ●加藤[illegible]君　醫學博士 ●賀古[illegible]君　醫學博士 ●河本[illegible]君　醫學博士 ●片山[illegible]君　醫學博士 ●川上[illegible]君　醫學博士 ●金杉[illegible]君　ドクトル ●笠原[illegible]君　醫學士 ●高橋[illegible]君　醫學博士 ●高山[illegible]君　法學博士 ●高木[illegible]君　新潟 ●高木[illegible]君　男爵 ●田代[illegible]君　醫學博士 田代[illegible]君　醫學博士 ●高崎[illegible]君　[illegible] ●田中[illegible]君　藥學博士 ●竹田[illegible]君　醫學博士 ●高橋[illegible]君　醫學博士 ●丹波[illegible]君　醫學士 ●高橋[illegible]君　醫學博士 ●田村[illegible]君　醫學博士 ●田原[illegible]君　陸軍醫監 ●久保猪之吉君　[illegible] ●米山[illegible]君　醫學士 ●星野[illegible]君　[illegible] ●宮本[illegible]君　醫學士 ●橋本[illegible]君　理學博士 辻新次君　男爵 ●坪井正五郎君　醫學博士 ●長與[illegible]君　陸軍中佐 ●南部[illegible]君　醫學士 ●長井[illegible]君　[illegible] ●中濱東一郎君　醫學博士 ●中[illegible]君　醫學博士 ●笠原[illegible]君　醫學博士 ●村松[illegible]君　醫學博士 ●隈川宗雄君

醫學博士 ●栗本東明君　醫學博士 ●山田[illegible]君　醫學博士 ●山田[illegible]君　醫學博士 ●山根正次君　[illegible] 山川[illegible]君　[illegible] ●山茂[illegible]君　ドクトル ●丸山[illegible]君　ドクトル ●丸山[illegible]君　[illegible] ●松山陽太郎君　醫學士 ●松本[illegible]君　學校長 ●小西信八君　醫學士 ●小泉[illegible]君　東京 吉川[illegible]君　[illegible] ●荏原[illegible]君　[illegible] ●後藤新平君　[illegible] ●エルヘ[illegible]君　醫學士 ●甲野[illegible]君　子爵 ●寺田[illegible]君　醫學博士 ●秋元[illegible]君　軍醫監 足立寬君　ドクトル ●新井[illegible]君　ドクトル 富士川游君　高崎 ●土谷[illegible]君　齒科 ●水原[illegible]君　ドクトル ●久保[illegible]君　醫學博士 ●佐々木[illegible]君　醫學博士 ●淺田[illegible]君　醫學士 ●朝倉[illegible]君　ドクトル ●朝山[illegible]君　高崎 ●秋[illegible]君　醫學博士 ●佐藤[illegible]君　醫學博士 ●櫻井[illegible]君　醫學士 ●佐伯[illegible]君　醫學士 ●佐々[illegible]君　醫學博士 ●櫻井[illegible]君　ドクトル ●樋渕[illegible]君　醫學士 ●北村[illegible]君　ドクトル ●北川乙二郎君

醫學博士 ●木下正中君　醫學博士 ●北島多一君　醫學博士 ●北里柴三郎君　醫學博士 ●三浦[illegible]君　醫學博士 ●三浦[illegible]君　醫學科 ●宮本[illegible]君　小兒科 ●宮島[illegible]君　醫學博士 ●三宅[illegible]君　醫學博士 ●三浦[illegible]君　醫學博士 ●土方[illegible]君　伯爵 島村[illegible]君　醫學士 ●弘田長君　醫學博士 ●肥田[illegible]君　ドクトル ●富田[illegible]君　ドクトル ●森川[illegible]君　醫學士 木村[illegible]君　醫學博士 ●青山[illegible]君　醫學博士 ●前野[illegible]君　醫學士 ●波多野[illegible]君　醫學博士 ●宍戸[illegible]君





若松支會增兵演技會餘興　仕舞　杜若



[illegible]
田[illegible]精[illegible]吉

名家演壇

糖尿病に就て

醫學士　木村德衛君述
佃速記事務所員速記

御依賴で御座いますから糖尿病の御話を致します、此頃段々糖尿病患者が多くなつて來るやうに思はれますが、是は生活の狀態が複雜になり、或は交通機關が便利過ぎて人間が不活潑になつて來て、運動をせぬと云ふやうなことが影響することゝ又一方には醫師が尿の撿査を忽がにせぬ爲めに以前ならば不明に終つたものが明かに糖尿病と云ふ診斷を附る故てありましやう糖尿病と云ふ病氣は、名の如く尿の中へ糖がはいつて來ると云ふ病氣て、是はズッと古も矢張りあつた病氣と見へまして、サンスクリットの中に蜜のやうな尿が出たと云ふ蜜尿と云ふ事があるそうであります、其後千六百何年か或人が再び尿が甘いと云ふことを言ひ出しまして、其次の年代になりて、甘いのは砂糖であると云ふことが確められました、此病氣は餘程面白い病氣でありますが、其面白い理屈は專門家てなければ御話しをしても御解りにならぬし亦格別御利益にもならぬことてありますから、さう云ふ部分は皆拔きまして、糖尿症になつた時の具合及び注意のことだけを主に御話し致さうと思ひます。

此病氣は確かに遺傳があるのてす、親が糖尿病て其子供が糖尿病に罹つたと云ふこともあり、又一代置て孫の代に罹つたと云ふこともございます、併し此遺傳は糖尿病と云ふ病氣が直接に遺傳して行くとは限らず、他の間接の遺傳的關係があるのてす、例へば、一族の中に非常に脂肪夥多の遺傳があつて、阿父さんも肥えて居らつしやるし、お爺さんも肥えて居らつしやるしと云ふやうに、一族に幾代か

さう云ふことがある一族には此糖尿病が起つて來勝てあります、又痛風と云ふ病氣も矢張り糖尿病に關係があります、其他神經質の一族には此病氣が兎角起ります、癲癇のある一族だとか、或は舞踏病と云ふ病氣に罹りました者、さう云ふ一族とか、或はヒステリイなとの家族、或は神經系統に關係ある病氣の一族には此病氣が起ります、又此の糖尿病が傳染すると云ふことを言ふた人があります、シミッツと云ふ人の統計では、二千三百二十人の中に夫婦て罹つたのは二十六人あります、さうすると百分の一ばかりの割合に夫婦て病つた者がある、之れは夫婦の中の一方が先に病つて他のものに傳染するのであるまいかと云ふやうの説明も付けられますが併しさう云ふ説明よりも今少し正しい理屈が付け得るやうに思はれます、それは詰り夫婦となれば生活の狀態でも、食物でも誠に能く類した境遇を經て行くから自然おなじ病氣に罹る機會が多くなると云ふので、何も之れを傳染と見るには及ばぬことてあります、それから此の病氣は他の病氣の結果て腦の或る部分に出血したとか、或は其處に腫物が出來たとか、其爲めに尿の中に糖分が現はれて來ると云ふやうなこともあります、それから精神上の感動で糖尿病を起して來ると云ふこともあります、デ精神上の感動が確かに糖尿病に關係があるのは、投機商などが屢々此病氣に罹りますが、相場をやつて株の景氣が好いと尿の中に糖が少なくなつて來る、それから株が暴落して來ると糖が非常に增して來る、と云ふやうなことがあります其他倒れて腹を酷く打たら糖尿病が起つたとか、胸を強く打つたら糖尿病が起つたとか云ふやうになるとも報告されてあります、それから甘い物を澤山食ふと糖尿病に罹り易いと云ふ、デ伊太利などには此病氣が多い、と云ふのは伊太利人は好んで甘い食物を食ふからだと言ふ人もあります、兎に角含水炭素を澤山に食して運動の不足なる時分には起り勝なのであります、それから傳染病の後で此病氣が起つて來ることが屢々あり

ます、腸窒扶斯だとか、赤痢だとか、虎列剌だとか、麻疹だとか、猩紅熱だとか、ア、云ふ傳染病に罹つた後で糖尿病を起して來ることがあります、年齢も多少關係があつて、二十歳から六十歳位までの間が一番多い樣です、併し子供の時代にも起ります、そうして男女の關係を云ふと婦人よりも男子が多く罹かります此の病氣は自分の宜い人が割合に多く罹る、又學者だとか、資本家で遊んで居る人、投機商それから銀行家さう云ふやうな人が多く罹る、中流以下の人にも多いと云ふ人がありますが併し割合に身分の良い人の方が餘計に罹るやうです。それで此病氣がどんな風にして來るか、豫め分つたら大層都合が宜いが、來方がなか〱分りません、初めは僅かに只胃が惡いとか、食事がおいしくないとか、食物の味が變つたとか、氣が鬱ぐとか、頭痛がするとか、耳鳴がするとか、めまいがするとか云ふ風に只普通の胃病の樣の心地で格別糖尿病に固有と云ふ症候もなしに萌して來ることが屢々であります、從つて此病氣は偶然に見付かることが存外多ふございます、近來尿の化學的撿査が盛になつて來た爲めに患者自身は勿論醫者も左程に思はぬ病氣で尿を撿査して存外糖尿病のあることが見付つたりすることとが屢々であります、それで此病氣に轉移の症候及び屢々來る症候は何々だと申しますると、例外もありまするが先づ此病氣は非常に咽喉が乾くことがあります、それからして大層食欲が增して來ます、又神經痛々々々と言つて居る人の尿を調べて見ると屢々糖尿が見付かります特に兩側の坐骨神經痛の人は注意すべきでありますそれから往々身體が痒い、全身が痒くて堪らぬ、何處も彼處も皆痒いと言ふて居つて、原因が分らずに尿を見ると尿の中に糖が澤山入つて居ると云ふやうなこともあります、それから身體によく腫物が出來て、此處へも出來た彼處へも出來たと云ふて、他に何ともなくつて腫物が背中にも腕にも出來るといふ樣なことで尿を調べて見ると、自分は知らず〱の間に糖尿病に罹つて居ると云

ふやうなことがあります、又小供が寢小便をする、それで阿母さんは何か不行跡だとか言つて非常に叱り付けても直らぬ、それから醫者に診て貰つたら尿の中に砂糖が入つて居ると云ふやうなことで是は竟畢小供の不行跡でも何でもない、止むを得ず病氣て寢小便をするのであります、それて此病氣が一時に重く現はれて來るやうなことがあります、アノ人の息を嗅ぐと林檎の樣な臭ひがすると云ふやうなことがあつて非常に重い糖尿病に罹つて、もう直に死ぬかと云ふやうな塲合になつて居る人が見付かつた例もあります、一體糖尿病の重くなつて居るやうな惡い狀態になつて來ると、呼吸が林檎の樣な臭がして來ます、或は尿が林檎のやうな臭がして見付かつたやうなこともある、それから第一咽喉の乾きが非常に多いから水を澤山飲む從つて尿が非常に多くなつて一日に四五升位になることは普通てあります又何遍も小便をしに行くと云ふことになります、それから尿の中に始終砂糖が入つて居りますから、其砂糖の量も存外多いもので、二百から三百ガラム位入つて來ます、三百ガラムと云ふと凡そ八十匁位、それが毎日尿の中に入つて來る、極く澤山出た折りには二キログラムも入つて來ます、キログラムと云ふと五百匁程てあります、それて澤山入つて來ますると、もう尿を棄て置くと砂糖が結晶して便器の側へ附着く、日本てはさう云ふのを見付けることは出來ないけれども、西洋では器の中へ始終尿をしますから、さう云ふことで糖尿病者の便器には結晶が附着いて居ることがあります、それから餘り年も老らないで髮の毛が非常に拔けることが此の病氣にはあります、それから爪が段々壞れて來ると云ふやうなことがあつて、尿を調べて見ると糖尿病に罹つて居る人があります、それから齒が惡くて虫齒に罹つて非常に齒が痛み又は齒がポロ／＼かけて幾ら醫者の所に行つて繕つて貰つても効かないと云ふやうなことて糖尿病に罹つて居る人があります、一體糖尿病に罹ると非常に齒が惡くなります、私の所

の前に齒の惡い糖尿病の人があつて、有名の金滿家であるが始終よく齒醫者が話をした「アノ人は大變御氣の毒な人で、どうも齒が惡くて始終直して居るが癒しても〳〵良くならない、其他にアノ人は糖尿病に罹つて居ると云ふ話しだ」、是は當然の話で、糖尿病の人は幾ら癒しても惡くなつて來ます、それだから糖尿病の人は齒を大切にしなければなりませぬさうして齒を磨くことを怠ると非常に齒を惡くします、又種々の眼病に罹り易くて屢々眼科醫の爲めに糖尿病が見付かることがあります、それから此病氣は他の病氣をいろ〳〵惹起しまして、殊に一番罹り易いのは肺結核であります、糖尿病患者が、糖尿病でなくて却て肺結核のために斃れることが屢々あります、以上申し上げました樣に糖尿病と云ふ病氣は咽喉が非常に乾くとか云ふ特別のことがあれば誰も氣が付きますがさうでなくてホンの腰が痛いとか、寒さの爲に足が痛いとか云ふやうなことを言つて、意外に此の病氣に罹つて居りますから皆樣も注意の爲めに折々は醫者に依賴して尿を檢査し置くことを私は御すゝめ致します、それでどうかして此糖尿病に罹らぬ工風はないかといふに是はどうも天然痘を除けるに種痘をするやうに豫め罹らぬ工風をすることが出來て居らないのです、デ是れは砂糖の樣な含水炭素類を澤山食つて運動が缺乏して居ると云ふことが最も此病氣に就て注意すべきことであるからして、十分に運動をして居ると云ふ位が豫防法です、それから罹つた時にはどうするか、是は醫者の所へ行つて見て貰つて適當の治療をお受けなさるより致方はありません、又皮膚が荒れる病氣ですから屢々湯に入ることが宜い、それも熱い湯に入る必要はありません、只身體を淨めるのですから、屢々入つて皮膚を氣を付ける、それから風邪をひかぬやうにしなければなりません、風邪をひくと糖尿病に罹つて居る人は重體になりますから風邪をひかぬやうに氣を付けることゝ、それから始終運動をして、體力が許すならば擊劍もや

るとか柔道もやるとか、馬にも乘るとかして酸化作用を盛にする樣に工風をするが肝要でありますそして夏は山手の方に避暑に出掛けるとか、冬は溫暖地方に行くとか云ふことは大變宜い、其土地を變へ氣候を換へた爲めに糖尿病が一時癒るとか云ふやうなことは屢々あります、さうかと云つて瘠せきつて居る人が擊劍をやる譯にも行きませぬからそれ等は體力に應じて醫者の注意の下で相當の運動をするやうに、又自分で自動的運動が出來ぬやうな方は按摩を取つて貰つても矢張り同一の運動ですから是も亦宜いのです、それから植木なども宜い、庭の手入をして快くなつたなどゝ云ふのは、矢張り運動の結果快くなつたのであります、それから藥より養生で、食物が一番肝要です、其食物は含水炭素を成るべく減じて行くことが主眼で、含水炭素の入つて居らぬ食物を撰て食べて居らなければならぬです、勿論之れは重症の糖尿病の時の事でありまして若し含水炭素類を食しても尿中に糖が入つて來ない樣な範圍内にては含水炭素類を食することは差支がありません否必要であります、それで此病氣に差支ない食物はどんなものだと申しますると、先づ肉類はどう云ふ形にしても宜しうございます、煮た肉でも生の肉でも宜い、それから魚類一切大概差支がない、それから貝類も差支ありません、又鮑とか、或は蟹などは食べても宜ふございます、それから卵子類も差支ありません油類脂肪バタ、チースも差支ありません、それから獨活なども宜いが餘計食べると宜くない、野菜類でありますと芹とか甘藍とか菠薐草。野蜀葵。小松菜の如きは差支がない、其他、肉エキス、それから茶だとか珈琲だとか砂糖を入れないて用ゐるが宜しうございます砂糖の入つたものは何でもいかぬのです、砂糖を使はぬ料理と云ふものはなか／＼六ケ敷いものであります其代り。サッカリン、と云ふ砂糖の何百倍も甘いものがありますから之を使へば差支ありません極く酷い糖尿病になりますと、ホンの僅かな砂糖が入りましても其尿の

中に砂糖が增して來ますから嚴重に含水炭素の入らない食物を撰んで上げなければなりませぬ、又左程重くない糖尿病でありますと胡桃だとか蕪大根などは少し位宜しうございます、それから茄子、蕗、豆腐、油揚なども少し位宜しうございます、それから此病氣に大禁物を申しますると、酒類はなんでもいけません、僅に極く良い葡萄酒を少し位與へる外果物の酒でも麥酒でもいけません其他菓子は粉と砂糖の入つたものは何でもいけません、果物の甘いもの蜂蜜もいけない、米、麥、稗、玉蜀黍、燕麥等もいけません、豆の類では小豆、大豆、隱元、豌豆、等總ていけません、それから芋類は、里芋でも薩摩芋でも馬鈴薯でも一切いけません、其他人參、百合、牛蒡、蓮根、慈姑等もいけません、さう云ふ工合に殆ど食ふものは無くなつて仕舞ふ、それから葉菜類の中で葱、韮がいけません、前の方に小松菜など宜いと言ひましたが菜の中でも辛菜などはいけません、又生薑、山葵などは總ていけません、又甜瓜、南瓜、西瓜、などは皆いけませぬ、それから醬油には砂糖又は極下等のものには蜜を混じて賣ると云ふ事でありますから非常に注意せんければなりません、以上は極々大體を申し上げましたのですが。此病氣は服藥が効を奏するよりも食物の注意で癒つて行く方が多いのですから、十分醫師の監督の下に食物の撰擇をなし決して自分量見で此樣のものは差支があるまいなど大失策をすることがあるから呉々も注意致さんければなりません、餘り趣味の無い御話してございますが、大概こんな事で後は理屈になつて仕舞ますから、是だけで止めます　（完）

耳に就て

醫學士　寺田豊作君口演

伽速記事務所員速記

耳に就ては別段に面白い話もありませず、又貴下方が編物を止めて御聽きになる程の話は無い、寧ろ編

物でも編んで居て、分らない所は捨て置いて分つた所だけを御聽きになれば宜いのであります、併ながら編物をして居ながらも他の人間の饒舌る事或は他の響きが分るやうでなければならぬ、編物ばかりではない本を讀んで居つてもすべての五官は働かなければならぬ、例へば吾々が往來を歩いて居るのに、即ち歩くと云ふことは吾々の一の仕事である、其の仕事を爲す場合に臨んで電車が來る、其の電車が向ふから來るか後から來るかと云ふことは耳が利かなくては到底分らぬ、若し轢かれた時は……轢かれるやうな事はありますまいけれども眼なり耳なりがぼんやりしてゐて轢かれた時は自分の疎忽で生命が無くなると云ふ話で誰を恨む樣もない、だから仕事の時も耳が能く聞えなければならぬと云ふことは、私が今此處でさう云ふ話をしないでも分るだらうと思ひます。

乃ち耳の必要であると云ふことは、吾々が眼で見ること、或は口で話をすること、或は物を食べること、或は又歩いたり、手業をしたりすると同じ位置にある、吾々の機官の中で耳は如何なる位置を占めて居るかと云ふと人の言ふ事を聽く、或は吾々の身を豫防すべき機關である、保護すべき機官である、其保護は向つて行く機關でなくして守る所の機關である、前にも申したやうに往來を歩いて居つても後ろから來た物は何であるか、車であるか、電車であるか、汽車であるか、人間であるかと云ふことを知らなければ、到底自分の身を保護するだけの耳を持たぬと言はなければなりませぬ。

それから耳は相互の間に於ける話、互ひの思想を受取る所の唯一の機官である、若し耳が無かつたならば、吾々は此世に生れても是程に發達したる世には出なかつたらうと思ひます、又若し耳が無かつたならば吾々の世界は暗黑であらうと思ふ、耳あればこそ親からは色々な事を敎へられる、他の人の評判も聽く、噂さも聽く、或は學校へ行つても敎師の言ふ事が能く分る、さうしてそれを理解することが出來

るので、遂に今日の位地を占めることになつたものであらうと思ひます、人或は眼が見えなければ如何に不自由であるかと思ふに相違ない、何故なれば眼て見ることは吾々の腦を使用せずして直ぐ分るから奇麗な物を見れば直ぐ是は奇麗である、汚い物を見れば直ぐと是は汚いと云ふことが分る、併し耳は腦の作用がなければ分らない、今こゝに鐘の響きがする、其の鐘は半鐘であるか、或は又お寺の鐘であるか、耳ばかりでは到底分らない、さう云ふ刺戟が耳に來たばかりでは分らないからそれを耳が一つ受取つて、吾々の腦で分解して見て初めて今度の鐘は電車の鐘である、是は汽車の笛である、或は又何處かに火事があると云ふことが分るのである、眼に於てはさうではない腦作用に便るとは比較的少ひと思ひます、縱令啞者であらうとも色位は判別する、盲目だけが見えないばかりで……さう云ふと耳も聾者だけが聞えないだけで他の人は皆な聞えると言ふか知らぬけれども、耳はさう云ふやうに吾々の頭を使用しなければ分解することが出來ないから、普通の人が眼を重んずる程耳は重んぜられない、私は醫者として耳の中の病人を見るに耳の患者は非常な數です、大學の耳鼻咽喉科の外來が年に四五千人ある其の半分は耳の惡い人であります、何故に耳の惡い人が多いだらうかと云ふと、耳は他の機官よりも割合に重んぜられない、詰り割合に損な位地に居る、眼が少し惡いと云ふと見えなくなると云ふので非常に苦勞にするけれども耳は少し聞えないでもそれ程に氣にかけない、何故かと云ふとぼんやりして居ても濟む、人と話をしなくても濟む、又人の言ふ事を聽かなければならぬと云ふ必要の無い事もあるからです、併ながら耳が無かつたならばどれ程の不都合があるだらうか、今一人の赤ン坊が生れた其赤ン坊が追々に母親であるとか父親であるとか云ふことを言ひ出し、又それを理解し、人に向つて色々面白い事を言ひ出したりするのは、其智識は最初どころから來たか、眼から來たか、口から來たか、或は又耳から

來たらうか、誰でも考へて御覽なさい、決して眼とは言へない、何故かなれば耳の惡ひ人は理會力は進まない、初めから眼が惡い人と、耳の惡い人とは、どう云ふ風をして居るかと云ふと、眼の惡い人は非常に感覺が鋭い、之に反して耳の惡い人はぼんやりして居つて、其容貌を見ても馬鹿氣て居る、頭の中も必ず馬鹿に相違ない、して見れば吾々が生れてから今迄の發育、即ち腦髓の發育は一番最初は耳から來たものであると見なければならぬでせう、盲目でも話をするのが上手でもあり、或は又色々な仕事をする、今では盲啞學校があつて色々な事を敎へるけれども、昔からの有樣を尋ねて見ても、耳の惡い人よりも眼の惡い人の方が腦髓の發達が早い、それは何であるか、話すまでもない直ぐ御分になりましやう、此二つを比較して見ると耳がいかに必要であるかは直に分る

それから又幼少の時に耳が聞えなければ啞になる、是は誰も知つて居る、啞は大概聾である、聾や啞はどう云ふ格好をして居るかと云ふと皆な馬鹿氣て居る、それは何故であるかと云ふと耳が惡い爲に人から敎へられることも出來ないと云ふ爲に食てわるいものも食ひ、食ふ時に食べなかつたりするから營養が惡くなつて身體の健康を害するのです、即ち吾々の腦髓の發育は初めに耳から注入されて又吾々の健康を維持すると云ふことは、其の幾部分は耳の力が與り存して居るのであります、若し少さい子供にして、うつちやらかして置いたならば、何を食ふか、どんな事をするか知れない、それを、何を食つてはいけない、いぢつてはいけないと敎へるのは何處から敎へるかと云へば矢張り耳からいかなければならぬ、子供は又是は食つてはならぬ是は食つても宜いと云ふことを敎へられて、先づ耳に依て判別をつけるのです、さう云ふ風に耳は、吾々が發育する上に必要なものである、人間一人の者が生れて大きくなつて、其の腦髓の發達は耳に依て初めて得る如く、人間の世界も亦さうでなければならぬ、吾々が文學

の無い時代に於て、何が吾々を進歩に導いたてあらうかと云ふと、必ず耳であると言はなければならぬ、何故かなれば眼で以て色々な事を言はうとすれば色々な動作をしなければならぬ、實に五月蠅い話である、或は又色々な動作をしても分れば宜いが分らない事が多いのです、それが耳であると、口で言聞かせれば直に分る、それ故に文字の無い時代に於ては祖父が父に向つて言ひ傳へ、又父から子に傳へ、其子が又後に讓ると云ふやうにして段々發達して來たに相違ない、さう云ふやうに耳は大切なものである、然るに先刻も話した如く、何故に耳の病人が多いかと云ふと、詰り耳は疎忽にせれると云ふより外ないです、何故に疎忽にされるかと云へば、前に話した如く、少し耳が聞えなくても默つて居つても濟むし、又それが何であるか理解しやうと思はなければそれ迄の話だし、するから前に話したやうに眼、口、鼻、手足と同じ位地にありながら途に疎略になるものであらうと思ひます、それから又親が子に向つて注意する際にも眼なれば直ぐにも氣もつくが耳は見えない所だから非常に注意を缺く、それが故に自然耳の病人が多くなるのであらうと思ひます。

そこで耳はどう云ふ位地に居るものである、又耳はいかに大切なものであるかと云ふことは前に申した所で御分りになつたらうと思ひますが、それならば耳の病はどう云ふ場合から來るか、それを知つて居れば貴下方がそれに對する豫防に大變便利であらうと思ひますから、是からどう云ふ方面から耳の病が起るかと云ふ事を御話しやうと思ひます。

耳は一つは外に通じて居つて、それは吾々の右と左に一つづゝ通じて居る、もう一つは咽喉の方に通じて居り、もう一つは腦髓の方に通じて居る、此の三つの交通を行つて居る、さうして重なる病氣は此三つの中からやつて來なければならぬ、今若し耳の外聽道の中へ豆粒なり石なりを入れたならばどう云ふ結果を起すかと云へば、異物自身より來る種々の徴候

は扨置いて、其の石とか豆とかゞ這入ると、先づそれには黴菌が附いて居ると見なければならばならぬ、黴菌が附いて居ると、耳の中には分泌と云ふものがあるから、其分泌物に對して黴菌を植えて、それが腐敗したならば外聽道の皮膚を惡くする、惡くしたならば其處から病が起つて、初めは外耳だけであるが、段々中耳にも進み、内耳にも進んで來る、又もう一つの外聽道から異物が這入らぬでも、外聽道を爪なり楊子なり、棒なりで掻いて掻きこはすと其處から黴菌が這入る、さうすると丹毒なるものを起して、非常に顏が腫れあがつて仕舞ふとか、種々な症候を起す、それから又通常よくあることで、醫者にも普通の人にも防がうと思つても防げないものがある、それは何であるかと云へば感冒です、感冒にかゝれば鼻がつまる、鼻がつまると如何にも不愉快で堪らぬ、又鼻腔の分泌が餘程殖える、どうもヅル〱と出て汚くもあり見苦しくもあり、其不愉快は非常なものですから鼻汁をかむ、かんでも〱取りきれない、遂には鼻に焮衝を起す、それにも拘らず一生懸命にかむ、さうすると、それがインフルエンザであれば液汁の中に黴菌も這入つて居るから、鼻汁をかむ拍子に其の黴菌を歐氏管から耳の方へ押入れる、さうすると黴菌が中耳へ這入つて行つて、中耳炎を起す、若しそれが結核性の黴菌であれば結核性中耳炎を起す、詰り其黴菌の持前の病を起すのであります、そこで其の起つた病が其儘で居れば宜いが、其害は必ず方々に及ぼす、是は耳ばかりではない、肺にしろ胃にしろ、どこにしろ同一の所に病氣が居つて呉れゝば大層宜いけれどもさうはいかない、中耳が惡くなつたならば必ず内部に進んで來る、内部に進むと、中耳に一番接近して居るのは内耳であるから内耳に及ぼす、内耳に及ぼすと吾々がどんな風に治療をしても治療の方法が無い、聾になつて仕舞ふ、又それからして腦に接して居るから浸入して腦膜炎を起す、昔は腦膜炎と云ふ病が非常にあつたのですが、今日はそれ程に無い、是は何故

かと云へば醫學が進歩して、耳と云ふものは斯う云ふものである、腦膜炎は斯う云ふものであると云ふことの分ることが早くなつたから治療も早くなつたのでありますが、昔は腦膜炎が耳から起るとは思はれないで居たのであります、今になつては患部を手術して開けて見ると成るほど耳から行つたものであると云ふことが十分に分るやうになつた、併し中耳が惡くなつて內部に進んで耳を犯し、腦髓の方へ破れて腦膜炎を起したならば人の生命は殆ど救ふべからずです、一週間或は二週間の中に死なゝくてはならぬ、それから又中耳の疾患が內部を犯さぬまでも外部に破れると外聽道に進んで行つて外聽道を犯す、さうすると始終耳の中から膿とか汁とかゞ出る、それも出るばかりならまだ宜いが大層具ひが惡い、從つて人の中へ行く譯にいかぬ、交際場裡などへはまるで駄目である、さう云ふやうな害を起して來る、其他腦膜炎が耳からでなく他の關係から起るとか其爲に耳がどうかなると云ふことは論ずべき場合でありませぬから申しませぬ、要するに耳に向つて病の這入つて行くのは、今話した、咽喉から來るか、外聽道から來るかの二つであります。

それから耳の解剖に就いて話しても宜い、ですけれども分りにくいもんですから生理作用に就て少し話して聞きませう、吾々の外耳はどう云ふ作用を爲すか、外耳と云ふのは耳の羽で、耳翼とも申します、此の耳翼はどう云ふ作用を爲すかと云ふと誰にでも分ることで是は音響を受けるものに相違ない、又何故に耳には斯う云ふ襞のやうなもの、溝のやうなものがあるかと云へば、昔の人は音響を受けて、或は音響には音の高いのもある低いのもある、二つ合したのもあれば三つ合したのもある、色々の音響がある、それに適するやうに溝があるのだと云ふ話です、それならば此溝を蠟ならば蠟で埋めて見たらどうかと云ふと埋めてもそれ程聽力には違ひはない、して見ると此溝は音響を聞く爲にそれ程音を強めると云ふ作用は持つては居ない、それならば穴を埋めて仕

舞つたらどうかと云ふと、鐘の響と笛の響と云ふやうな非常な違ひのあるものは分るけれども、木の音であるか鐘の音であるか分りにくゝなる、それから又耳翼を後ろの方へ抑へて置いて見ると聞え方が少々惡くなる、それは吾々が想像する如く耳翼は音響を受けるものであると云ふことの證據です、さうして耳翼の中で一番大切なのは、耳の穴の前の所に少し出張つたものがある（講師は耳を指して示さる）それからもう一つ深い所があつて其處に一つ羽が出て居る、是はどう云ふ作用をするかと云ふと、一つは耳の中へ虫とか塵とか云ふ物の這入るのを防ぎ、もう一つは後ろ或は前から來る響を一つ所へ集めて耳の中へ押込むと云ふ作用を有つて居る、さうして外聽道は音響を導くだけで、外聽道を這入つて向ふへ突當りは鼓膜である、鼓膜は漏斗のやうな形をして居る、非漏斗のやうな形になつて居るのが必要なものであります、何故かなれば其漏斗の形の所に槌骨と云ふものがあつて、槌骨から方々へ絲を張つたやうに線が通じて居て、其線が色色の響きに對して反應する、さうして其響きを中へ傳へる、所がちよつと考へると其線へ音響が當ると非常な震動持續を起すやうに思はれる、けれども震動持續は起さない、之は漏斗形の構造の爲め震動の間が極く短い、それ故に外から來る音響を何度でも受取ることが出來る、若し一つの響きがあつていつまでも膜が響いて居ると、後から來る響きは何であるか聞別けることが出來ないから、鼓膜と云ふものはそれ程に自分自身には響かないと云ふことが必要である、何れにしても響きを鼓膜に傳へて、鼓膜から連續して居る所の小さい骨が三つある、其の三つの骨が更に動かされて初めて內耳に至るのです、內耳に至ると內耳には水が溜つて居つて其の水に對して響きを導いて、さうして其の水が更に神經の末稍を刺戟する、其の刺戟が神經に傳つて腦髓に至るのです、又歐氏管は中耳の氣壓と外氣壓と平均せしめる役目で爲めに鼓膜の緊張は始終不變である理合になつて居

ります、先づざつと御話すれば耳の生理作用はさう云ふやうになつて居る、それ故に鼓膜に障害があらうとも、鼓膜に連絡して居る骨に障害があらうとも、又内耳に分布して居る神經に障害があらうとも、吾々の聾を起すことは一樣です、又前に話した如く耳の羽は不用のやうなものであるけれども、穴を埋めて仕舞つたり無くして仕舞つたりしたならば音響を聞くことは非常に鈍いものであるから是とても大切なものである、生理作用に付てはまだ他に色々話もありますけれどもそれは專門に屬しますから此位にして止めて置きます。

それから餘計な事のやうでありますが貴下方は皆な婦人の御方であつて、皆さんの役目中で必要な事は何であるかと云へば是から子供をお持になる、其の場合には赤ン坊の耳を始終檢査をすると云ふことが必要であります、前にも少し申しましたが、耳が聞えなければ吾々は更に一層發達することが出來ないのであるし、耳が聞えなければ精神作用が鈍いのであるから身體の發育が惡いのであるし、又耳が聞えなかつたならば人の話を聽くことも出來ないと云ふことで、自分の子供の發達上に對しても非常な影響を及ぼして來るです、さうして吾々が健康なる、即ち此會の名くる如く衛生を重んずる會であるならば、吾々は總ての衛生を守らなければならぬ、即ち耳が惡い爲に精神上の衛生を缺き、肉體上の衛生を缺くことになる、若し精神上の衛生を缺いたならばどう云ふ結果が來るかと云ふ事は話さぬても分つた事でありますが、今迄は健康なる身體に健康なる精神は宿ると申しましたが、そればかりでは一を知つて二を理解しないこと今の反對に健康なる精神は健康なる身體を生み出すと言はなければならぬのです、何故かなれば衛生であるとか病氣であるとか、さう云ふやうなものは吾々の精神が發達して初めて出來たもので、吾々の身體が健康であるからさう云ふものが色々分つて來た譯ぢやない、吾々の精神が非常に健康であるからの結果である、即ち吾々が精神を

健康にして、吾々の身體に對して不利益なるもの、食物にしろ、空氣にしろ、或又音響にしろ、それを一々識り別けるものは精神である、さうして見ると吾々の身體が健康であるならば健康なる精神を持ち來すと言はずして、逆にして、健康なる精神は健康なる身體を作ると言ふて宜しい、衛生と云ふ事を重んずるならば健康なる精神がなければならぬ、吾々が始終丈夫で居たいと云ふならば常に精神が健康でなければならぬ、其の證據には頭に何か苦のある人は必ず痩せます、空氣が惡いとか、飲物が惡いとか、食物が惡いとか云ふばかりでなく、何か苦痛があるとか、心配があるとか云ふと、そればかりでもつて吾々の身體は不健康を來すです、それから又さう云ふ風な精神の不健康は總てのものに害を及ぼして、詰り全身に及ぼすのです、それ故に精神の不健康は吾々の一番貧しいものと言はなければならぬ、食物が澤山あり、衣服が澤山あり財産が澤山あると雖も精神が不健康で、身體が不健康であるならば吾々は有福なりとは言へない、さうして又其の必要なる精神の健康、身體の健康は耳に關係することが非常に多いのでありますから、自分の耳が惡ければ勿論のこと、自分の親族なり、親なり兄弟なり朋友なりに耳の惡い人があるならば皆さんが能く御注意を願ひたいのであります

（完）

寄書

●火葬に就て（一番良ならず）

醫學士　竹中成憲君

火葬の起原は頗る古きものにして僅々の國民を除くの外古代は一般に行はれたるが如し除外例としてエヂプト人は死體を「バルサム」を以て保存し（木乃伊）ユーデア人は一種の塚に納め、支那人は土葬し

ギリシヤに於ては自殺者、齒牙未生兒及び雷死者に限り火葬を許可せり羅馬に於ては左の法律ありき

「死體は之を市内に土葬し又は火葬する事を得ず」

" Hominem mortuum in urbe ne sepelito neve urito."

而して羅馬は事實に於ては共和政體の末より西暦四百年頃までは火葬式を襲用し上記ユーデア人すら疫病(黒死病?)流行時には火葬を行へり

宗教上の意味より『火』の神聖を信じ之を汚さむ事を恐れたるものは死體を中空に懸し棺を樹上に吊し、「例之黒海東岸のコルチス(Colchinns)人種及び「アイヌ」の一部?)或は水葬の式を用ひたり

火葬の方法の同一ならざるは勿論、火葬後遺骨を瓶に納むるものあり直に埋葬するものあり又空氣中に散亂せしむるものあり(thrown to the wind)日本に於ても淳和天皇(五十三代)遺詔に依り火葬せしめられ御骨を大原野に散布せしめたまひしかば御陵なしといふ

奇なる慣習は遺骨の粉末にゴムの如き粘着物を混じ之を遺族者の頭部に塗り附くるなり例之ばアメリカ土人の一族 the Digger Indians に之を見る

新潟縣小出町の近村に於ては死體を火葬するに當り近親のもの火を點ずる際は全身裸體の儘火葬場より自宅に走り還るの風俗あり

殉死と同一意味にして偉人を火葬するときは其死體と同時に獸類を燒く事あるのみならず奴隷(スクラーフェー、スレーブ)を共に燒殺する事ありき(Caesar, De Bell. Gall. 參照すべしといふ)

我國に於ては佛教の流布以來火葬するもの多し■佛教上梵語にて火葬を茶毘(ダビ)又闍維(ジャヰ)といふ■持統天皇(四十一代)遺命を以て之を行はれ靈元天皇(百十一代)は其不仁なるを言はれ御厨の出入、魚屋八兵衛なるもの、熱心なる運動に依て天皇を土葬し(承應三年九月)是より至尊の葬永く茶毘を停められたり

本邦現在九宗十二派の中尤も火葬を奬勵するものは眞宗(俗、門徒)にして親鸞聖人は自身自から火葬

せしめ某所謂「御傳鈔」に其事實を證き門徒全體土葬を許さゞる事とせり

今代に於ては明治六年七月十八日一般火葬を禁止せられたるも同八年五月二十三日再び其禁を解かれたるものにして東京府は同年七月二日令して火葬は遺骨のみ朱引内墓地に座埋する事を許し死體は土葬を許さゞる事となりたるを以て朱引内に自己の寺を有するものは必らず火葬せざるべからざる事となり随て明治二十一年には死者三萬餘人中土葬二萬餘火葬一萬餘なりしもの明治三十年には死者の三萬餘中土葬二萬弱、火葬一萬五千餘となれり

歐洲に於て火葬の衰退したる一原因は耶蘇教の爲めなりといふ彼の「身體の蘇生」the surrection (Auferstehung) of the body なる主旨之を妨げたるものと思はる近き過去に於て火葬を賞用せるものはイタリア國の醫家及化學者にして明治七年(一八七四年)にはミラン市に於て本問題を討議せむが爲め委員會を開きたり瑞西國のエルコラニ氏 Dr. Vegmann Ercolani の著書は有名にして火葬を奬勵す該國には之が爲めに二個の協會あり

寛政九年(一七九七年)の昔、佛國に於ては既に本法の良否につき議論あり降つて普佛戰爭の際に於ける戰歿者の始末は大に世の注目する所となりセダン、シャロン及びメッツに於ける土葬は其有害なる事を證明し明治七年(一八七四年)遂に歐洲に於ける火葬協會の意見を徴するに到れり

英國に於ても夙に賛成者ありしが本問題を公然提出せるの人はトムソン氏 Sir Henry Thompson にして同年ロンドンに『火葬協會』the Cremation Society of London を創設せり

シャム人は火葬に就ては頗る熱心なるが如し事情のために一時土葬したるものも好機來らば之を發掘して更に火葬に附す

予は衞生上よりは勿論、土地其もの丶經濟上より火葬を奬勵す今東京市に於ける墓地の景況を案ずるに——人口百八十萬、年々死亡するもの二プロッエント(百人に付二人)、明治三十六年度の死亡屆出三

萬餘、外死產約三千、故に葬式の數は三萬四千以上ありき市內千三百四十七個寺の境內は殆ど餘地なし(土葬許さず)大多數は市の內外に於ける九個所の共同墓地に行かざるべからず此九個所の總坪數は約十八萬坪外に市內に市有官有の墓地三十三萬坪ありて總計五十万坪あるも過半は使用濟となり居り今後使用し得べきものは二十五萬坪位なるものなりといふ死者一人一坪を要すとすれば今後二十五萬人分より餘地なき道理、向ふ三十個年を以て滿員となる斯の如き有樣であるがゆゑに、土葬は許可する事が出來ぬ火葬して血族は一個の場所に可成密居せしめざるべからず

茲に予の注意を乞ひたきは

明治三十年法律第三十六號(傳染病豫防法)第十一條に

『傳染病患者の死體は醫師の檢案に依り當該吏員の認可を經て二十四時間內に埋葬する事を得』

第十二條に

『傳染病患者の死體は火葬すべし』云々

とある事是なり

右は頗る衞生的なるも予は死者の爲めに左の如く改正を希ふものなり

『傳染病患者の死體は火葬すべし

但、死後二十四時間以上を經過するにあらざれば火葬する事を得ず』

一見甚だ沒理的のやうなれども予は死者の爲めに危險を避けむとするなり

急性傳染病の多くは假死の狀態に陷る事多く醫師にして眞死と誤りたるの例を耳にする事屢あり殊に劇甚なる流行に在て當事者の手不足なるときは注意を要す(例之は戰地に於ける流行時)左に傳染病に係る數例あり

(一)予の知己にして予の妻の同鄉高知縣人なる郵船會社靑森支店長松本良吉氏は往年長崎に於て「コレラ」に罹り屍室に移されたりしが多年奉公せる下婢、輾々痛怛の情に堪へず強て乞ふて屍室に到りしに主人は數多屍體の間に積み重ねられありし

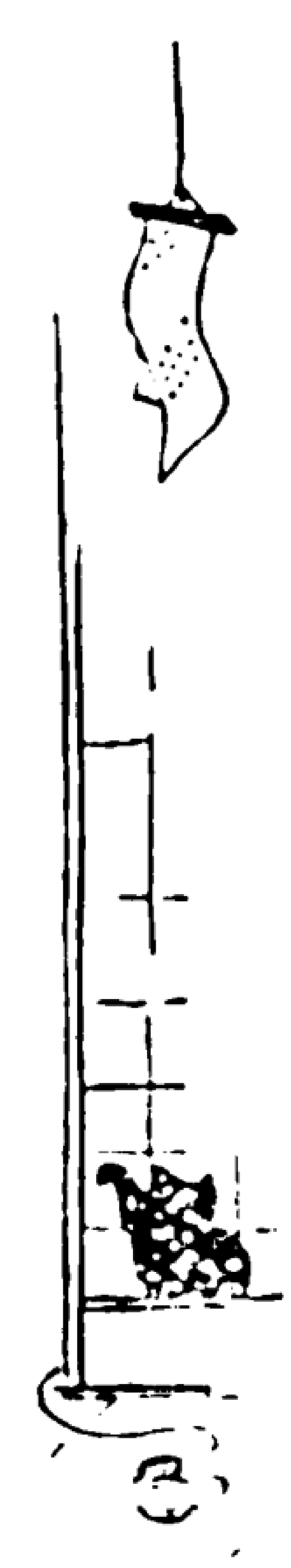
が主人の眼を熟視するに尙眼瞼の運動あり即ち當事者に申告して屍體を引出し遂に主人を救け出したり（氏の自から語る所に據る）

氏は爾後凡二十年快活なる生活を送り明治三十七年胃癌を以て沒せり

（二）岩手縣吉野村小笠原某赤痢に罹り遂に死す親戚號泣集つて通夜す其夜二時俄然ムーンと云つて死人棺より出づ衆、幽靈なりきとして逃出し全く蘇生したるなり（明治三十二年やまと新聞）

吾人の完全なる消毒方法を識れる今日よしや死體が數時間從前の時間よりも長く吾人の傍に横りたりとて何の危險の周圍に在るべき乎

此危險を避けむとてにはあらざるべきもシヤム人 Siamese には規則ありて火葬前本人の身分に應し一定の時間其死體を寺院中に置く最長は王にして六ケ月以下、之に準ず兎に角火葬に先ち十分なる時間を經過せしむるは必要なる條件と信ず又刑事問題に於て火葬は證據隱滅の恐あるを以て許可に對する時間の長さを良とする也



（完）

大家談叢

●瘦せる法

前號の雜誌に青山一會員の御質問に肥滿性にて御こまりのことにつき診察せねば分りませぬと申し上げましたが本會に關係深き某醫學博士にはこの雜誌を見られしものかわざ〳〵肥滿症に對する所謂瘦せる法を書きおこされたり是れは近世名家の說にかゝる事でありますから其說は尤も正確なことです記者は今其文章を解し易き樣に言文一致に書き直して左に御話しましよう

醫學博士　鶴波　醉人寄稿

肥滿する方は平素成べく脂肪や含水炭素（含水炭素と申すのは砂糖や澱粉を指すので澱粉は米麥等の穀物に多く含んで居るものです）を少なく用ゐるのが

よいのです其代り肉食は多く食べてよいと云ふ議論もありますが是又澤山に食べますときは肥滿する憂があります然れども三大滋養素（脂肪、含水炭素、蛋白質）中の二者を節減したる上に肉類をも減じましたならば營養が不良になるだろうと論ずるものもありましやうが去りながら肉類と蛋白質とは同一のものではありませぬ中は脂肪を増殖しますが純蛋白はさうでありませんから肉類の減少を補ないます爲めには「ニユートローゼ」「プラスモーン」「サナトゲーン」「アロイロナート」「ロボラート」等を以て蛋白質の缺乏を補うがよいので砂糖の代用には「サッカリーン」を用ふるは妨げありません且つ又成るべく容積が多くして飲食の感覺を起しましても、其實滋養素に乏しき品例之へば麥飯、黒麪包、諸種の野菜類を召し上がれ併し其献立は一應醫師に相談せらるれば殊によいので其他山などに登ることや自轉車室内體操などは兼ねて行はるゝがよい散歩は爲さゞるに勝りますが差したる効力ないとのことで屢々入浴することは甚だよいので持藥としては規那鐵を用ふるも効があります

右はベルンスタイン氏の所論でありまして減損療法なるとは明らかでありますが此法は永く續いてやりませんければ其効力は著明とは參りません併し纖手細腰を以て美人を形容しましたのは昔時の弊風です

明治の書生謠つて曰く

「立てば大木坐れば臼よ
　歩む姿は常陸山」

と是れ吾が將來の妻なる方々に望む處で普通の肥滿は憂ふべきでありません脂肪過多なる人の爲め此の書を寄す云々

姙娠の攝生

ドクトル　緒方　正清氏所說

同氏の談片は前號にも記載せしが尙簡略に左に拔萃しましやうソレハ婦人の大役たる姙娠の事です是は何度聞いても尤も必要なることとですから

▲分娩前の攝生　分娩の前の養生は尤も必要なことで姙娠と申すものは今までの多數の實驗によると一番終りに未だ月經の始めの日から勘定すると凡そ二百八十日目に分娩をして、謂ゆる姙娠の時機が終るのである、それで姙娠は斯く月經期間におけるところの婦人の一の生理的作用ではあるが、その場合には身體の種々の部分にさま〴〵の變化が出來て、若し一歩を誤つといふと直ぐ病的の範圍内に移りゆくのであつて、普通の人では決して健康を害ねたり、または病氣を起したりするやうなとのない些細な事故でも、それが姙婦には決して些細では濟ずに、種々の病氣を惹起すのであるから、姙娠中は必ず一定の攝生法を守らぬと、分娩なり、産蓐なり、または姙娠中において、種々の障害を來して、子供即ち胎兒のみか、遂には母體までも關係を及ぼして、姙婦が生命を失なふやうな場合も出來るのである

姙娠中に攝生を怠つた結果の、頗る危險なとは此の如くであるが、その攝生法は何うかといふと、左程六かしいものではなく、只一口にいへば障害のないところの慣れた生活法は決して變る必要がなく、萬事よき程に加減してゆけば、即ち事は足るのであつて、姙娠中有害であると認めた日常の生活法は、無論これを止めんければならぬが、假令よい事柄でも姙娠中に急に變るといふとは、却つて有害な結果を來すものである、さてこれからは、分娩前の攝生法の重なる項目を擧げて委しく解説しやうと思ふが、それは、睡眠、精神感動、運動、清潔、衣服、乳房、食物、便通、嘔吐、服藥其他尚一ヶ條の十一目である

▲姙娠中と睡眠　姙娠中は睡眠が不足であつたり非常に夜が更けたりすると頗る害になりますから、深更まで精神を使ふやうな仕事であるとか、劇場であるとか、多人數の會合であるとか、緣日であるとか、雜遝の市街とかには、成るべく出ないやうにして、精神を安静にして、睡眠を十分にとるやうにせねばならぬので、素人考では、假令夜が更けても人少

なて、愉快にさへ遊んだら格別の害はなからうと思ふやうだが、何れ程面白いとても夜が更けると精神が疲勞して、睡眠不足になるから、これも心して遊るやうにせねばならぬのである

▲分娩の長短　西洋人でありますと初產婦は二十時間經產婦は十二時間といふ長時間を要するに反し日本人は初產婦は十二時間經產婦は六時間位で殆んど西洋人の半ばの時間で短かいのは幸福な次第であるて、何が故に斯く西洋人よりも日本人が安產であるかといふと、全く骨盤が大きいからで、即ち碎いていふと畢竟お尻が大きいから胎兒が出易いのであるこれは誠に奇妙で、日本では昔から楚々たる柳腰なんぞといつて、腰の細そりとしたほど美人として珍重がつた反對に、西洋では近時のハイカラ先生達の通を極るが如く生理的美人といふ沒趣味な名の下に風姿美よりは體格美を比較的に喧しくいふのにも似ぬ、意想外の事實であるが、よく考へると決して不思議でも何でもなく、要するに西洋の婦人は。身體が馬鹿に大きくて男も耻しいほど立派な體格ではあるが、その骨盤の內容が案外狭少なに反し、日本の婦人は身體が繊弱げに風に堪へぬほど優しやかなる人までも、意外に骨盤の內容が廣いから、分娩が迅速に且容易なて、これは畢竟人種の區別で斯る相違を來すものである、ところが、一般に下等動物は分娩が單純で且つ容易なが、動物學者の通說であるよを根據として、彼等西洋人は自分の骨盤が種々な生活の關係でもつて變形したとを棚に上げ、その分娩の困難なはやがて人種が、上等なからであるなど丶自惚れてゐるものもあるやうだが、餘り馬鹿げきつた手前味噌で、殆ど一笑にだも値せぬ愚說である、上下三千載、蓬萊の仙郷に天地秀靈の氣を呼吸して遠くは印度支那、近くば歐米、世界の文明を只こ丶もとに集めたわが日出づる國の婦人は、決して下等人種といふべきものでないとは、事新らし氣に靑筋立て丶反駁するまでもなく、業已に人類學者の議論がこれを證明するものもあり、且われ〳〵婦人科專

門の側でも意見のあることであるが、話が餘り專門的に渉るから、それは姑く學術雜誌上の解説に讓るとして、ある獨逸學者にも分娩の難易は人種上の關係であることを證明してゐるのがある、それは、日本婦人の分娩が、概して迅速に且容易なことは一般學者の認めてゐる所であるが、日本人と羅馬人との間に出來た婦人の分娩は困難で、アングロサクソン人即ち獨逸人と英人との間に生れた婦人の分娩は、尚ほ更困難であつて、この事實によると、雜婚の行はれない亞細亞人および亞弗利加人の分娩は、極めて容易なものであらうと推斷されるといふのである

▲出産日の豫知法　俗間では月經が閉止つてから十ケ月後といふ風に取つてゐるが、これは甚だ不正確なもので、餘りに舊式な方法である、それで科學的といふと聊か大袈裟だが、今ではズツと確實な算定法がある、第一には、最終の月經の起始から九ケ月と七日を加へた時が分娩の期日で、例へば本年一月二十日に月經が閉止つたとすると、是に九ケ月と七日を加へたところの十月二十七日が、丁度二百八十日目で、即ち分娩の期日であるのである、第二は月經の終末から後に三ケ月を引去りそれに七日を加へるのである、例へば二月二十日に月經が閉止つたとすると、二月、一月、十二月を引去り即ち十一月二十日となるが、これに七日を加へたならば十一月二十七日となつて、やがてこれが二百八十日目で分娩の期日なのである、第三は胎動、即ち子宮内における胎兒の運動によつて知ることが出來るのである、それは初めて胎動を感じた日から二十週目が分娩期日といふのであるが、この方法は最も馴れた經産婦でなければ、些と六かしい算定法であつて、初産婦は胎動とは何ういふものかといふことを理解せぬから何時胎動を感じたかといふことを記憶するのが困難であらうと思ふ。さて、以上の如き算定法で分娩期日を定める時は、縱し一二日の差はあつても、決して一週間以上の差はないものと心得て可いのである、また此分娩の日を反對に計算する時は、受胎した日限

を取ることが出來るのであります

▲診斷　往々世間では分娩期日まで醫師にも産婆にも見てもらはぬものがまゝありますが之は誠に惜むべきとですが、西洋などでは醫師や産婆に相談します若しも經濟上に於ても許るさないとならば差向き助産婦の學識經驗あるものにたのむが必要です

▲産婆　碌に教育も受けぬ所謂取り揚げ婆々は全國に殆んど三萬人以上もあるそうで此等の産婆は人體の組織を知らないのみならず産婦の取扱法も僅かに素人のする位しか知らぬものもあつて無學無識のものが多いから産婆の撰定も困難ではあるが先づ内務省の免狀を受けたもので經驗に富んだものを撰定するようにする外ありません内務省の免狀をもつて居る産婆はまだ五六千人以内で産婆の三分の一にも足りない世人は動もすれば醫師や助産婦に寧ろ重きを置かないで分娩の際に守り札を頭部に結び付けたり腹帶にしたり神水を飲ませたり分娩時の産褥の方向をその都合で定めたりするが如きは笑ふべき迷信も多いが要するに助産婦若くは産婆の學問の程度は醫師の外に鑑定することが出來ないものであるから産婆をたのむのは醫師に撰定してもらうが一番よいです

●冷水浴　　P. A.

追々暖かくなりますから冷水浴でなくとも冷水摩擦は御すゝめしますそして今から暑中と云はず寒中と言はず毎日なさるようにしたいもので一度此習慣が付きましたなら實に心機爽快で其日一日は朝から何事をするにも元氣がよく活潑になるかと思ふようですそして水浴法と申すことは古昔からも行はれて居るので今でも水浴法は病氣により用ゐます割合に男子學生などは冷水摩擦をするものが此頃澤山出來ましたが御婦人方にはよいと云ふことを口に解かるゝも兎角御面倒が先に立ちて試みられる方が少いようです今日本で冷水浴の起源を一寸と御話ししましよう

極く古るい所は分りませぬが今を去ること凡そ八百

年前三條院の頃に既に行はれたといふことがあります恐らく是れが冷水浴の初めて起つた紀元にあらうと思ひ升それから下つて後朱雀院の朝に矢張り冷水浴を行ッた是が源平時代に其事蹟が殘ッて居る皆さん覺えてお出てでしやう彼の源平盛衰記に

▲淸盛入道を熱病

火の病に罹ッて冷水浴を行ッたといふ事をコレハ火の病だと云ひますが矢張り熱病なのでそれで冷水浴をしたのだと云ふ人もあります斯う云ふのが日本で冷水浴を行つた極く古るい歷史でありまして下つて戰國時代になつては誠に斯ういふ事蹟の考ふべきものがありませぬが兎に角此法は古るくより行はれて居ッたもので今始まつたものではないので西洋人などは湯に這入ることが少ないから何れも此法により身體の淸潔と健康を保ッて居ります

▲クリスニッチ水治法

此法はクリスニッチ罨法と申してクリスニッチと云ふ墺太利のジユレジエンと云ふところの一農夫が發明したので初め此水浴法を動物に試みまして多少の効能を見てそれから色々經驗を積んでいろ／＼の順序を經て千八百三十年に墺太利に水治療院と云ふものゝ開設が始めて出來るようになつたのでございます此人は一農夫ではありましたが水の療法に就て種々の苦心と種々の經驗をもつて色々の規則をこしらへてそれを書物に書きました其書物は今日でもまだ其書物を改めないで其儘に用ゐられるやうに出來て居る是れは元と一農夫のしたことではありますが研究の結果は今日に至ッて私共のみならず貴所方まで胸の痛い時に胸を緊かり捲いて居られると云ふやうに此クリスニッチの罨法を用ゐられるやうになつたのであります日本では佐々木博士が明治十八九年頃に高等中學の學生に水治法といふことを說いて行なはせたといふ事が初まりて其後此法がだん／＼行なはれて此法を行ッて痩せきつた人が大變に太ッた例も澤山ありますから只よいと云ふことばかりを知ッて之を行ふ勇氣がなければ何にもなりませんから

ドーか實行されるやうに皆さんに望みます

▲ドクトル内藤達氏談片

▲傳染性眼病　總べて傳染病は肉眼で見えない黴菌から見るものであつて顯微鏡の力をかりて之を確かめる外はない位であるから兎に角傳染し易いので其傳染は内外の二方より來るので其内方では血管の媒介、身體の病竈からうつるので外方よりするのは眼と云ふものは外表に曝露されてゐるものゆゑ病毒が飛び來ッて接觸する機會が多く危は實に多いのであります例へば呼吸器では鼻腔喉頭、氣管、肺臟、消化器では口腔、咽頭、食道、胃腸、肛門、生殖器で眼から黴毒がはいつて全身に蔓延することもある失明することも又眼の結核から腦または肺に結核を起したりすることがある東京においてペストの流行したとき横田醫學士が眼からペスト菌が侵入して遂にその職務に仆れた例めしもあります又一面から見ると

▲自家傳染

といふことがあッて身體の一局部に黴菌的疾病がある場合に自分の手、布片の媒介で傳染することが多い例へば淋疾の膿汁を眼につけたり咽頭にヂフテリーがあッて眼についたりその他種痘の汁、婦人の白帶下の汁などから危險な眼病を起すことがある殊に顏面または頭部の皮膚に發生する傳染性發疹物は眼に接近してゐることとて、眼に毒を移すことが從つて容易わけて無意識な少兒などにはこの機會がまことに多いのであります

▲一般の豫防法

眼の清潔法　眼を外來の障害を避ける意味でまた一方には既發の際にも清潔に處置することが必要で其處置としては保護眼鏡、眼の洗滌、分泌物の處置を心得ねばなりません

保護眼鏡　外來の障害を避くるには是非必用で色は煤色で形ちは成るべく大きいのがよい、コレは外來の塵埃を避くるのみでなく光力を減じて過度の光線を避くる功用があるから少しでも眼のわるい人には尤も必用なもので世間では青色の眼鏡を用ゐるもの

がありますがソレハ間違てす若し又煤色を好まぬとか視力の減じた場合とかには無色の普通の眼鏡をお用ゐなさいコレは固より誰にもお用ゐなさいといふのではないが風塵の多い場合とか旅行とか又は職業により例へは石屋、綿屋、紡績會社の工場などでは屹度これを用ゐねばならぬのであります

▲次には眼の洗ひ方

これは眼の内の異物を取り出す目的でありますから通常清潔な水か煮沸した水で朝夕に一回づゝ眼の周圍、まぶたの周圍、睫毛などに附着せるものを洗ふので其洗ひ方は眼尻の上の方から眼頭へかけて推し出す積りて洗ふのてサウすると眼の内の不潔物が眼頭へ來て洗ッた水と同時に流れ出るのであり升通常は毎朝顔を洗う時に眼を洗ふのてあるがその夕方若くはその日の内に今一度洗う必要があるのてその場合には石鹸てまづ自分の手を洗うので玆に尤も注意すべきは爪です爪は傳染病の媒介物てありますから常によく摘み取つて置かねと眼を洗ふときに爪の中の不潔物が溶けて非常な害を起すことがありますから

患者が眼を冷やし又は蒸すときでもイツモ爪を摘み取りてはやさぬように心掛けられることは尤も必要です

▲傳染を防ぐには

從來手拭とか「ハンカチーフ」などを用ゐソレから他のものにうつる例は實に多いので例へ一定にきめて置いてもツイ他のものが手拭などであると使用ひ易いもので從つて患者がます〳〵ふえるのであるから是等は止めて眼病には消毒したガーゼ又は清潔な白木綿を用ゐるようにして十分に分泌物を拭きて之に吸ひ込ませて一つの唾壺のやうなものに入れて燒き棄るか又は二千倍乃至五千倍の昇汞水に入れて暫らく置きて棄るのが一番安全てすよく赤い紅絹を用ゐますがアレハ吸ひ込む力が弱きのみならず赤色のために害を與へらるゝこともあり升から是等は全廢さるゝがよいのてす



衛生雜話

●咀嚼作用に就て

ドクトル、オブ、メデイシン
ドクトル、オブ、デンタル、サージエリー　佐藤運雄

咀嚼とは齒牙を以て食物を粉碎する處の作用にして口腔の機能中最緊要なるものであります、而して此作用は所謂咀嚼筋に依りて營爲せらるゝものでありまして尙之れが補助として舌、頰、唇及び唾液腺が働ひて其作用を全くせしむるもので御座います御承知の通り此咀嚼作用は他の動物に於ける樣に人間にありましても生存て極めて早くかつ本能的に行はれるもので御座いまして、嬰兒が乳房を咬むのも或は自分の指を咬むのも又は凡て手に觸るゝ處のものを何でも口に持て參りまして咬みたがるのも實に此本能によるので御座います、之れが嬰兒の發育と共に漸く發達して齒牙が萠生て參りまして顎骨が硬く化骨して筋肉が丈夫になりまして終に如何なる食物でもよく粉碎して消化し得る樣になるので御座います

抑も咀嚼作用は如何なる効用を致すもので御座いましようか、右の如く咀嚼は人類が本能的に營爲する處の作用で御座いまして之には餘程緊要なる意味がなければなりませんと存じます、素より咀嚼は消化作用の順序の第一で御座いまして其消化作用は身體各部を搆成する處の細胞の生命を繋ぐ働きであることは明白で御座いますから咀嚼は實に吾人が生存の第一義である次第で御座います

然らば咀嚼作用は如何なる方法によりまして其効力を發揮するかと申しますれば大要左の樣な次第で御座います

一、食物を粉碎すると

吾人が食しまするものは大抵小さい片になつて居りますけれども尙之れを消化し易くなる樣に齒牙の咀

咽面に於ける舂臼作用によりまして微細なる粉末となすのでありますヘルッェン氏の實驗によりまするヿ普通の胃液が煮沸蛋白を穿通するの速度は一時間に一密迷の比で御座います其れですから速く且完全に胃腸て消化を營ましむるには完全に咀嚼をするヿが第一の要件て御座います

二、唾液の消化作用を全ふせしむるヿ

一體唾液は消化に必須缺くべからざるものでありまして乾燥硬固なる食物を柔軟浸潤たる食片に化して其の嚥下を容易ならしめ、又た澱粉を消化吸收に便ならしむるの蕪粉と「デキストリン」に變ぜしめ、又た水に溶解すべき物質及び醱酵素を食物中より溶解して抽出すこと等何れも皆唾液の消化作用で御座います、處が唾液は或刺戟興奮の作用が加はるにあらざるよりは此等の機能を完全に行ふ程分量に分泌せらるゝものではないので御座います、而して其中て最も自然て且有要なる刺戟は此の咀嚼作用てありまして咀嚼と唾液の分泌とに相分つべからざる至要の關係を有つて居るものでありまして咀嚼運動が行はれざる時分には唾液は多量に分泌せらるゝヿなく從て其消化作用を全くするヿ能はずして消化全體の上に大なる不良影響を及ぼす次第で御座ります、誠に咀嚼を充分なさらない人の口頭を御覽なさい、其方の臼齒には齒牙が餘計に蓄積して不潔になつて居るヿが普通で御座います其れは唾液が多量に分泌されないものですから口腔の不潔物を洗ひ去るヿが出來ないからであります、唾液は其れ丈ケ消化作用を營むヿが出來ないのであります

三、消化液の分泌を亢進せしむるヿ

食物を咀嚼しまするヿ其中から抽出せられまするもので味神及び臭神を刺戟して其の刺戟が腦髓に傳達せられまして其れから反射的に消化器殊に胃に分布する迷走神經及び交感神經に傳はりまして茲に胃液の分泌を亢進せしむるもので御座います、其れてすから咀嚼するヿが完全でありますれば愈々胃液の分泌が多くつて胃消化が愈々完全に行はれる次第て之

れに反し咀嚼が不充分でありますれば此の如く消化液が多量に分泌せられないで從て消化か不充分になる譯で御座います

四、口腔組織の發育を完全ならしむると口腔を構成する處の筋肉殊に咀嚼筋及び腭骨は極めて大なる發育をするにあらざれば完全に口腔の機能を營むことの出來ないものでありましてブラック氏の實驗によりまするど腭骨を堅く閉合する際顋はるゝ力は五十乃至二百五十磅の重量に比例するものであります咀嚼筋及び腭骨が此の如く大なる發育をするのは幼少の時より之れを適當に使用するからでありまして即ち筋肉は之れを規則正しく運動せしむると其中に分布する血液及び淋巴液の循環を旺盛ならしめ漸次其生育增强をならしむるものであります、筋肉が此の如く生育しまするど腭骨も之れに連れて生長致します、即ち下腭骨に其營養がよくなると漸次前外方に延長し增大致しまして從て之れが對合者たる處の上腭骨を亦停止することが出來ないで一つは下腭骨の咬合平面の影響と一つは筋肉が下外方に牽引することによりまして下腭骨と同樣に延長增大致しまする此の樣に筋肉及び腭骨肉に血液の供給が餘計になりまするど其附近即ち口腔組織全體に發育が宜しくなりまして齒牙及び之れに附隨して居りまする齒槽突起等も凡て其余澤を蒙むる譯が御座います

而して右の如く腭骨等がよく發育しまする時分には之れと關係の密接なる鼻眼は勿論凡ての頭蓋骨及び腦にも其影響を致すもので御座います、之の事實は腭骨發育不全による齒牙の配列不正が腦の發育不全と數々同時に來ることに徵しても明白で御座います

咀嚼と云ふことは右の如く緊要なる作用を致すもので御座りますけれとも、之れは常に必らずしも完全に行はれるものでは御座いません數々種々の原因によりまして之れが不完全なることが少なくは御座いません、今若し咀嚼が不完全でありましたならば如何なる結果が生じまするかを少しく申述べましよう

一、咀嚼器官が充分發育することが出來

ない

若い時分に咀嚼器官が發育しつゝあるに方りて或事情のために充分之れが使用せられないと前記の如く所謂勞働充血を起すとが少ないものですから筋肉も顎骨も充分發育するとが出來ないで其發育が或は中途で止まりまするか或は不規則に發育する樣になりまする咀嚼器官の發育が充分でないと云ふとは如何にして判斷するかと申しまするると大樣左の如くで御座ります

（い）咀嚼筋が強く働かない

咀嚼筋は皆樣が上下の顎骨を堅く閉合なさると頰の外面から堅くなつて其一部を觸れるとが出來ます、之れは通例極めて堅いものでありますけれども發育が不完全であると其れ程堅くなるとが出來ません之れは丁度腕に出る力瘤の樣なもので其堅さと大さによりまして力の有無が分ります

其れからも一つ此力を檢査する良法が御座ります其れは日本でよく體格檢査の時に指力を計るものが御座います、あれと同じ原理で「ナツ、ダイナモメーター」と云ふ器械が出來て居ります、之れは齒と齒の間に入れて堅く咬ませるので御座ります其樣致しますると通例の人にありましては百乃至二百四五十磅の重さに相當する力を出すもので御座りますけれども其發育不完全なる時分には僅に五十磅或は尙以下に相當するとが少なくは御座りません、

此の現象は幼少の時から余り堅き物を咀嚼しなかつた處の所謂體質の纎弱なる婦人に多く又た早くから臼齒が齲齒に罹つて消失したる場合にも目擊する處で大抵常に顎骨の發育不全を伴ふもので御座います

（ロ）顎骨が充分發育しない

顎骨が發育完全なる時には上顎と下顎とは正しく相咬み合ひまして且其各々顎骨は其齒槽突起を以て十六個の齒牙を過不及なく立派に受容しなければならない譯で御座います、處が之は寧ろ稀なる現象でありまして大抵の場合には或は一方の顎骨が他のものより小さいか或は顎骨と齒牙との比例が不平均で其

齒牙全部を一齒列內に受容し盡すヿが出來ないのは決して稀では御座りません此の如き場合には顎骨の大さと齒牙の大さとの間に不調和が起りまして其れが齒牙の不正排列として顯はれるもので御座います例之下顎の前齒が不規則に發生したり小臼齒が內方に轉位して生じたり又は智齒が離生したり又上顎にありては其の齒列が歪んだりするヿは之れがために起るヿが通例で御座います

(は)齒牙も滿足に發育するヿが出來ない

顎骨が其の運動により充分の營養を受得するヿが出來ない場合には其內に植立する齒牙も亦滿足に營養を受くるヿが出來ないで其造構が不完全なるヿが通例で御座います、此の如き齒牙は齲齒の原因なる處の酸類の作用によく堪ゆる能はずして容易に齲齒に罹る、其れから齒牙の周圍の齒齦も亦生活力が旺盛でないために動もすれば黴菌の侵入を蒙むり易く加之咀嚼が完全に行はれないと齒牙等が沈着して刺戟を生じ易いものですから夫の不治或は難治の齒病たる齒槽膿漏即俗に云ふ脫け齒に罹り易いものであります

二、周圍の組織に及ぼす影響

咀嚼運動は直接には顏面下半部の發育に影響を致すものですけれども間接には尙廣く其周圍組織の發育に少なからさる感化を及ぼすもので御座います其中で最も必要なるは左の三つて御座います

(い)上顎竇

上顎骨の實質中には眼下部に於て鳩卵大の小空隙がありまする上顎骨即ち之れでありまして此の空隙は顎骨の發育不全なる時分には滿足に形成せられないものでありまして能く不規則なる形狀を致しまする、左樣致しまするとー寸風邪に罹るとか或は僅微なる原因が加はりまするとと此空隙內に容易に膿が生じて蓄積して少なからざる苦痛を起す樣になりまする之れが所謂上顎竇蓄膿症で御座いまして難治のいやな病氣で御座います

(ろ)鼻　腔

御承知の通り鼻腔の側方と下方は顎骨で出來るものて殊に鼻中隔は丁度口蓋の上面に立つてる支柱の樣なもので御座います、故に此支柱の立つて居りまする地盤即口蓋が變形しますると支柱も彎曲するか或は變形しまする殊に此支柱は薄い軟骨から出來て居るものですから容易く彎曲致しまする左樣すると所謂鼻中隔彎曲症とか或は軟骨肥大症とか云ふものが忽ちにして出來まして鼻が塞つて鼻から呼吸することが困難になりまする、鼻がつまることは僅な障害の樣で御座りますけれとも決して左樣では御座りません其影響は直に咽喉に及んで其れから耳に及びます其外腦に種々の故障が起りまして頭痛がする頭が重くなる記憶力が少なくなる神經衰微を起す等其れは〳〵隨分厄介なことになります

（は）腦

前申しました通り咀嚼を幼少の頃から能く營まないと顎骨がよく發育しない顎骨がよく發育しないと腦の發育に少なからさる影響を致すもので御座ります其れは咀嚼がよく行はれますると少なくとも頭の下半部は直接に勞働充血を起しまして血液が充分循環し營養がよくなりまする左樣すると之れと直に續いて居ります處の腦の方にも血液が充分供給せられて營養がよくなつて完全に發育する譯て御座います其れて御座りますから腦の發育の不充分なる小兒を見まするど或は顎骨が歪んて居つたり齒牙が著しく不規則に排列したり或は口を開いて口から呼吸したりすることは決して不思議ては御座りません

三、胃腸に及ぼす影響

上記の如く咀嚼は消化作用の第一階級てありまして之れが若し完全に行はれない時分には消化全體の上に頗る大なる影響を致しまする即食物が細く挫碎せらるゝことなくして胃に下りまするから胃は之れを消化するために長い時間過度に働かなければならないから數月乃至數年の中には疲勞して弱て來る其れから其咀嚼が完全に行はれないと唾液が充分に出ないから澱粉性のものをよく消化することが出來ない澱

粉は之れが胃に參りましては消化されないものでありまして左樣すると忽ち玆に於て醱酵を起して瓦斯を生じて。胃を膨脹せしめまする、之れがため長い間には胃が大きくなつたぎりて、所謂胃擴張症を起しまする

其外咀嚼が能く行はれないと消化液が滿足に分泌せられませんから消化が完全に行はれなく右の樣に咀嚼が不充分であると種々なりとが起りまして其れが集つて先は胃に於ける消化不良を起す夫の食後胃部に鈍重を覺えたり或は酸敗を起したり或は苦ひ液體が逆流したりするのは何れも其初期でありまするが之れが漸く進歩するに從て腸の働きも遲滯して來て便通が惡くなる或は少しの原因のために忽ちにして下痢をするとか種々の不良徴候を生じまする

加之消化作用が不良になりますると營養物が充分體内に吸收せられないのと一は不完全なる消化作用のために生じたる有毒物質が吸收せられてために身體一般の營養が不良となり皮膚の色澤が暗色を帶びて來るし腦の働きが不活潑になる身體が疲勞し易くなる等一々枚擧に遑あらずと云ふとになつて參ります

凡て此の如き順序で身體組織の新陳代謝が不完全になりますと身體の生活力が減弱して容易に病原のために侵され又一たび疾病に罹つたものゝ其治癒が困難となる

以上は咀嚼が不完全の時に起る現象の一般で御座いますこれから左に少しく咀嚼を完全ならしむる方法及び注意を述べるとに致します

一、食物の種類及び調理法

單に胃に於ける消化作用のみを考へましたら食物に凡て極めて軟かい消化し易いもの許りを食して居りますると身體のために宜しい樣でありますけれども之れは一の誘惑に過ぎませんで決して左樣なるものでは御座りません、抑も齒牙、顎骨、及び咀嚼筋と云ふのもは何のために存在して居るものですか殊に實驗によりまするると此等の組織は前にも申しました

通り頗る強力に堪ゆる様に出來て居りまする、造化の意を推測致しましても之れを使用せずに置くの至當でない様に思はれます

然るに又翻て之れを見まするに現今の様子では坊間に種々なる會社が出來まして種々小兒に與ふるために消化し易い軟く食物を製造して日に其の販路を擴げて居りまする之れは果して吾人の利益になる食物でありませうか、此の如きものは之れを食するに方りあまり咀嚼器官を使役するの必要が御座りませんから、此の如きものを以て小兒を育てますると其小兒の咀嚼器官は決してよく發達するものでは御座りません多くは顎骨が歪んで居つたり或は齒牙の排列が不正になりまする、而して此の如く咀嚼器官が滿足に發育しませんければ咀嚼運動は決して完全に行はれるものでありませんから小兒が生長した後と雖も一般の人の食する樣な硬固なるものを食しますると稍もすれば直に不消化を起す怯弱なものになるとが通例で御座ります

其れから現時は大分食物の調理と云ふことが問題となつて參りましたが其の改良と共にあまり汁氣の多い浸潤した食物が多く悅ばれる樣になるのは少し注意しなければならない現象で御座ります、凡て食物は浸潤して居れば居る程唾液の分泌を促す度の少ないものでありまして唾液の分泌が少なくなれば前申しました唾液の働き殊に澱粉消化作用が充分行はれませんから不消化を起し易い譯で御座ります

右の理由によりまして食物はなるべく堅く乾燥して居つて而も胃に於てあまり骨が折れないで消化の出來るものが宜しいもので御座ります故に小兒にありましても咀嚼すべき臼齒が生じて來ましたらば追々硬固なる食物を順次に注意して與へまして咀嚼を滿足にする樣に教へることが必要であります、其れから浸潤した食物ばかりでなく乾燥した物質も消化をよくするのに却て必要であると云ふことを記臆して戴きたいので御座ります

要するに吾人は通例の食物を充分に浸潤し消化する

力を持て居るもので御座りますから敢て之れを人工的に軟くし消化し易い樣にする必要がないのであります、現今人工食料として販賣せらるゝ「ミルクフード」「ペプトナイズドフッド」とか無數の此種のものは病人には必要なるものでありますけれども健康なる小兒には決して要のないものです

二、能く咀嚼をする習慣を養成すると

如何に消化し易い樣に出來て居る物質でも之をよく咀嚼しないで液體を一呑にする樣に致ます時は矢張滿足に消化するヿが出來ません軟くつて咬まないても已に細くなつて居りますものでも之れを直に胃の中に送るときは消化は滿足に出來るものでは御座りません、前申しました通り口腔の働きは唯食物を細く咬碎く許りでなく其中の一部殊に澱粉を唾液の働きによりて消化するものであります而して此澱粉は身體中唯口腔に於てのみ消化せらるゝものでありまして唾液が食物と共に胃に下りますと胃液に逢ひまして此働きをするヿが出來ない樣になります故に澱粉は必らず口腔で消化されなければならないものであります

其れでありますから咀嚼をよくすると云ふヿは只々食物を咬み碎いて細くするのみでなく口腔に於ける消化をよくなさしむると云ふ意味でありますから成る丈けよく且長く之れを營む樣にするヿが必要であります

或人は一定の食物を口腔に入れると之れを一定の度數丈け咀嚼すると云ふ習慣を有つて居つたものがありましたが、之れは結構には相違ありませんが常に斷行し難いものであります故に可成能く即ち硬いものでも充分軟くなるまで咀嚼すると云ふ習慣を小兒の時より養成せしめ置くヿが必要であります余り軟いものだの餘り濕つたもの許り食して居ない樣にするのであります

其れから今一つは餘り急いで食事をしないヿであります、小兒が學校に行つたり或は遊びに夢中になつて居る時には食事を急いでしたがるものであります

が之は惡い習慣で直に習い性となりまして生長の後迄續きまして從て不消化の原因をなすことが少なくは御座りません之れに最も氣をつけなければならぬことて御座ります

其れから事務の忙がしい方々は動もすれば急いで食事をなさいまして加之食後充分に休むことも出來ないことが往々で御座いますが之れも亦注意しなければなりません元來食事と云ふことは吾々が健康を繫ぐ處の一大仕事で御座いまして決して義務ではないのであります

三、咀嚼器官の狀態に注意すると

咀嚼器官は前に述べました工合によりまして少い時からより之れを使役して充分發育せしめ且其の破損しない樣に衛生法を採用致しまして（口腔の衛生法は後日申述べます又已に其破損したる個所あるときは直に之れに修理を加えまして常に咀嚼が完全に行はれる樣にするのは吾人が天與の生命を長くするの一大義務であると存じます熱い者冷い者が齒にしみるかとらか、或は齒が欠けるからとか、或は齒が痛いからとか云ふのは決してよく咀嚼をしない申譯とはなりません之れは各自の心掛けの宜しくないのを表示するものに外なりませんことゝ信じます

あまり長くなりますから此の位で止めることゝ致します申遺しましたことは他日筆を改めて申上けることゝ致しませう。



質疑欄

●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又答解に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なきも事務所へは姓名御通知の事●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急ぎの分は回答せず

質問者　新潟地方一會員

問　一妾の體は肺結核患者で時々咯血を致し升が醫師を迎へにやりまして都合で急に來られぬ事も

あり升因て何ぞ應急の爲め平時より用意して置く止血藥がありますまいか、

問二痰壺には二十倍の石炭酸水を入れ朝夕に之を大便所に捨てますが宜しいてしやうか、又洗滌曹達の指頭大のものを入れても消毒の効ありと聽きますが果して充分の効力ありましやうか、

問三結核細菌が井戸の中又は河流に落ちたとせんに細菌は無限に繁殖致し升か、

一、答　喀血とは呼吸道特に氣管又は肺臟より鮮紅にして泡を含みました流動性の血液を喀血するものを云ふので多くは咳に添ふて起る時としては咳なく突然に來り或は一時に多量を喀き或は多少の喀血數回反復して起ることがあります喀血の來る前には通例胸の深部に一種物の充滿して壓される樣な感覺と温暖とを覺え呼吸がせわしくなり心機亢進次で喉頭に一種の灼熱とかゆみを覺えます此時早く喀血の前兆なるべきことを察して速やかに相當の處置を施す時は大に病勢を挫さうるものです則ち喀血の前兆たることを知りましたならば次の處置を取らるべし先づ患者の衣服をゆるめ上身を高くして靜臥せしめ胸のところを開て充分に胸部の冷水罨法を行ひ或は直ちに冷水を注ぐもよろし次に濃厚なる食鹽水（食鹽に少しの水を加へる位にてよろし）を飲用せしむべし或は沸騰散一二包を服用せしむるもよし此くして患者は極めて安靜にして少しも動搖せしめず又嚴に言語を禁ずべし右の處置を爲したる後若くは爲すと同時に速に醫に報告して診を乞はるべし

二答　石炭酸は御問ひの通りてよいのですが洗滌ソーダでは之を入れて其痰を沸騰させねばいけませぬ痰丈沸騰させても勿論消毒の効はありますがソーダを入れると早いのですサレバ只ソーダを入れたばかりては微菌を撲滅することが出來ないのですから却ツて前の石炭酸をお用ゐになツた方が安全です

三、答　體内から外に出てゝからは結核細菌は井水又は河流の中では永くは生きては居りませぬ勿論無限に繁殖するものではありませんコレは温度と養

分と他の黴菌の存否により生活の時期に長短があります天氣のよい時日光に直射させますと結核菌は數分以内で死滅してしまいます

質問者　白山浦　新潟支會々員

問　怪我をして出血の時石炭酸水で洗ひガーゼをあて綳帶をするなどは稍々面倒ですから何ぞ消毒及び止血作用をなす軟膏の如きものが御座いますまいか

答　怪我と申しても大きな怪我と小いさな怪我とで其手當も違ひますが小さい傷なれば（ビック）或は硼酸軟膏位貼ッて置いたらばよいです舶來ゴム絆創膏なれば尤も世話はありません一々石炭酸などで洗はぬも清水で洗ッてもよいが不潔の恐れがなければスグに抑へて右の品をお貼りなさい又大きい傷であれば心臟に近い方をシッカり縛ばッてイクラ面倒でも綳帶等充分の手當を要するのであります

質問者　本會の一會員

問　私事お湯に入り又は身體あたゝまりますと足の（ふくらつぱみ）と申す處が毛あなのふくれた樣になりわさ／＼とかゆくなりますがこれは如何の事でしやうか何にかよきおくすりがありますれば御知らせ下され度願上候

答　是れは急性の濕疹でしようかゆくてもかいてはいけませぬウヰルソン氏軟膏を付けて御覽なさい本會の第百八十三號の質問欄にある處法と同じです

東京　牛込　一會員

問　私弟本年十八歲に相成候ところ顏面一體に「ニキビ」出來處々に膿を持ち醜きことに有之候故何卒御藥御示教願上候

答　コレは年頃の人に多くある皮膚病で脂腺及び其輸出道の焮衝で殊に慢性の消化不良便秘貧血等を憂ふる人に最も多く發生するようです其他沃度剤臭素剤等を連用した爲めに起ることもあります之を壓すときは白き蟲のようなものが出ることもある治療は胃病などのある人は之をよく治療せしめ局所にはナフトール石鹸或は加里石鹸の如きもので洗ひましてナ

フトール硫黄を含める膏薬を御塗りなさい輕症なのには百分の十の硫黄軟膏を塗り毎朝洗ひ落すようになし又「クンメルフエルド」氏洗滌水を塗るもよろし併し此藥を用ゐる間はおしろいなど用ゐて鼻黒になりますから御注意にならねといけませぬ

い、け、子

問　當地方はマラリヤ熱（俗に瘧）が流行致し升が之は一種の蚊に因て傳染せらるゝと聞いて居りましたに蚊の生存せぬ嚴冬の頃にも時々發生する理由伺上候又隔日に發熱する理由も併せて伺升

問　特効藥はキニーネの外にありませぬか素人はキニーネで癒すと身體が衰弱するとて甚だしく之を厭ひ御神符、おまじなひ御祈禱などで落しますが之れが不思議にも効を奏する事ある理由伺上升

答一、マラリヤ熱は蚊によりて傳染することはたしかでありますが嚴冬の頃蚊はいないようでありますが蚊は寒中でも生存しないものではありません人の知れぬ處に隱れて居り人の寒中などには蚊のいないものと安心して居る内にイッカ刺されて夫れから傳染する譯です隔日に發熱するとですか夫れは蚊の種類によつて違ひます隔日に發熱するもあれば三日熱四日熱と申していろ〳〵に發熱します是れは全く其寄生虫が違ふからであります

二、答　マラリヤ熱の特効藥は矢張キニーネ劑です分量の用ゐ樣でソウ衰弱するとなしになほります御神符やおまじない御祈禱などで治癒すべきものでありません是れは一ツの迷信で偶々治癒したと申すのは治る時期が來た偶然の出來ごとで是等を信用することは大なる間違ひであります

質問者　東京　會員

問　産前産後の食物御敎示下され度洋食は如何に候哉又油こき物何日位にて食され候や伺上候

答　産前産後共に不消化物を避けらるゝことが緊要です竹中學士の調査を左に申し上げましやう姙娠中

には

するめ、いか、えび、かに、たこ、かずのこ、こんぶ、にしん、貝類、せり、牛蒡　あづき（皮取ればよし）豆類（皮取ればよし）せきはん、だんご、ぼたもち、たうもろこし、まつたけ、しひたけ、きのこるい、かんぴやう、こんにやく等なり

解答者曰く產後は少くとも十日間は床に寢て居て二週間よりすわり三週間に床拂ひするのが通例で此頃より常食に復してよろしいので初めの一週間は牛乳玉子お粥位ゐて二週間目位よりさしみ柔らかなめし其他消化し易きものより追々常食に復されるようになさい餘り油こきものなどは胃を害しますから御產のしたてなどには用ゐがよいので少しの間身體の調ふ內は食物に御注意あつて御辛棒が緊心であります

問一、日覆には種々の色を用ゐあるを見受申しますが何色が衞生上よろしきや伺上候

質問者　愛知　一會員

問二、當地にては古來より夜露に當るは惡るいと申し傳へ居り候夜分の散步等は有害に候や

問三、冷水摩擦の効能及方法御示教を乞ふ尙知人にて腰部以下は止め腰より上部のみ冷水摩擦を行ふ人あり右は全身でなし腰より上のみにても有効に候哉

一、答　日覆とは光線をよける窓掛の樣なものですか總じて黑色は熱を吸收しますものですから夏などは暑つく白色は光りを反射しますから涼しいのですから多く日よけなどには白色の布を用ゐるのであり白色は汚れも目立ちますから衞生上總べて此色を貴ぶわけでありますが眼のわるい人などで白色は眼に反射强しとあれは鼠色にてもなすつたらよいでしやう

二、答　夜露に當たるのは古來より言ひ傳への通り惡るいのでたとへ夏の熱き夜でも餘り永く夜露（空氣のしめり來たるとき）にあたるときは身體が冷えまして爲に寒冒にかゝり又は熱病などに變ずるよう

な不幸が來ります御承知の通り全體夜の空氣は不潔のものと云わねばなりませぬ之に反して朝の空氣は非常に清潔で有ますから勸めて早起をして永く夜露などに當ることを止めて朝露に散歩して御覧なさい非常に心悸爽快となりて夜分散歩の比較には成ません

三、冷水摩擦は感冒にかゝり易ち腺病質貧血の人などには尤もよい其方法は先づ朝なら顔を洗ひ手拭を水に浸し先づ手胸脊中等より下部に至る迄隈なく摩拭するのでありますが併しグシャ／＼した手拭で只身體をコスッたりしては却つてゾットして氣持ちが惡い要するに手拭をよくしぼり摩擦して少しく赤くなりて血の循環のよくなるようにコスラネばならぬので腰部より上部のみ行はるゝは行はざるに勿論勝るも全身の方が總體の平均がとれますから半分なれば半分丈の效能があると申さねばなりませんがヨク絞ッた手拭で下部もヨクこすつて御覧なさい非常に氣持ちのよいもので慣れると一日行はないと不快を感ずる位であり升

問　牡蠣は大層滋養のあるものゝ樣に承り居り候へ共果して眞に候や伺上候　　東京麹町　一會員

答　　質問者

幸ひ東京傳染病研究所助手佐伯矩氏の説を得ましたから左に其全文を揭げて御答としまやう

牡蠣の蛋白質中にはグリコゲーンと稱する動物性澱粉が大量に含まれて居りまして西洋では之れが尤も貴重なる滋養品として貴ばれ、貴族にあらざれば濫多に使ふ事は出來ぬと迄言はれて居つた、故に西洋では醫者が或症ひの處方に牡蠣何箇と書く事がある、ナニしろ彼地には牡蠣が至つて尠なくグリコゲーンも兎などの如き動物の肝臓から多く製造され爾うして販賣されるから價と云つたら一グラム（凡そ我が二分六厘に當る）の原價一圓と云ふ高價である故所詮日用上に汎く用ゆる事は出來ない、然るに我邦では幸福にも廉價で爾うして容易く牡蠣を求められるからグリコゲーンも價を廉く精製されるのである元來此のグリコゲーンは味が無いから小兒患者に

服用させるには尤も適して居る、又牛乳、鷄卵或は主湯、スープなど用ゐる場合に滋養品として別に牡蠣のスープをお勸めするのです、爾うすれば多量のグリコゲーンが煮出されて精製せるグリコゲーンと同じ滋養の作用を有するからであるとのことです

質問者　相模　柳下まつ子

問　蔬菜類は鹽漬にしても格別不消化にならず候哉私は漬物は不消化のよしに聞き及び候故成るべく煮て食する方針に候がドチラが消化よろしく候や

二、問　私地方の少年は法律に制限あるにも拘はらず喫煙するもの多く候間少年に對する煙草の害を精しく御教示願上候

一、答　野菜の種類漬物の製法にもよりますが極端に漬物と煮た物と何れか消化よろしきやと申せば勿論煮物の方が柔らかて消化は非常によいので又極めて安心なのですなぜかと申さば漬け物によりては多くは消化し難いものが多いのです總て煮ませんものはドーカすると彼の恐るべき「ヂストマ」などの玉子などの居ることがあるから煮たものにてしたものはない支那人は決して生まものを食はぬ爲め随分不潔の事の多きにも拘らず其割合にコレラ赤痢其他の傳染病に罹るものが少ないされば胃病持ちの御方なとは余り漬け物は御勸めしませんが併し胃の丈夫なものでありますれは漬物は一體食慾を増すものですからよく嚙めば少しは却ッてよいのです併し香の物などは小兒や老人などにはよくキザンで召し上がる様にせぬと其儘不消化で排泄することがあります

二、答　煙草の有害なることに就ては嘗て本會雜誌第百十六號（明治三十二年七月發行）に岩井禎三氏が詳述られましたから御覽下さいましだが少しばかり摘錄しましやう煙草の毒即ニコチンと云ふものは實に甚だしいもので人はモルヒネ亞砒酸などは誰れも大毒として尤も恐るゝ處ですが其實ニコチンの毒はモルヒネに勝ること三十倍ストリキニーネに勝ること十倍亞砒酸に勝ること五倍ですから阿片烟の害

よりも其害のひどい事は御分りでしやう今其各毒藥に就き其極量を申しましやならば左の通りです

藥名	一回の極量	我邦量に改めると
モルヒネ	〇、〇三	七毛八糸
ストリキニーネ	〇、〇一	二毛六糸
亞砒酸	〇、〇〇五	一厘三毛
ニコチン	〇、〇〇一	二糸六六
アトロヒネ	〇、〇〇一	二糸六六

煙草は斯樣な毒物ですから少年には勿論の事でありますから政府が之を禁じたので大人にも自然禁じさせる樣煙草税などは非常にあがッた譯で其害は頭痛神經衰弱、眼痛、不眠心悸亢進等種々の害を起し記憶力を鈍らせ智力を減ず世間には喘息頭痛消化不良腦病胃病等の人か多くありますが煙草を止めために全癒した例も澤山あります又本月十五日の讀賣新聞にも西洋長壽者の例が出て居ましたが長壽者は多くは喫烟せさるものに多いと云ふことも出て居ります位ゐです尚詳くは前に申した通本誌に就て御覧あれ

問　脈の規則正しいのと不規則大小柔硬とは如何なることを申すのですか又乾いた咳とはドンナのを申すことですかどうぞ御教へ下さい

關西の一會員

答　脈の硬軟と云ふことは素人方には少しむづかしいので軟脈と云ふのは「チヨウチプス」即熱病の樣なものに多くこれは脈管がやわらかになり随ッて其脈の打ちかた即ち感じが柔らかである硬脈と云ふのは矢張り一種の病ひで血管の硬固で脈の打ちかたも又硬いので脈の大小とは字の通り脈のよく知れるのと知れぬとの事です

又乾いた咳とは咳が出てですにコン／＼とせくので氣管支其他の部分に異常のあるわけです

質問者　京都一會員

問　私事春になりますと顔にはたけの樣なものが出來それが恰もふけのように飛び散り顔面の皮膚が何となくザラ／＼して心持あしく如何致せば癒るものにや伺上候

答　それは多分皮脂腺分泌過多症と云ふのでしやうこれはよく婦人に多くある病ひで先づ之を癒すには加里石鹼をおつかいなさい惡るい石鹼をつかいますと却ッてふへますソして左の處法の藥を一日二三回御付けなさい併し此分量多過ぎれは平均に分量をへらしても同じ事てす

レゾルチン　五グラム
グリスリン　十グラム
アルコール　一〇〇グラム

中外彙報

●長生の秘訣

右は讀賣新聞所載にして長壽者の實驗によるものなりいふ

近刊のクランドマガジーン雜誌は知名の士にして八十歲以上の高齡に達したる人々の姓名を揭げ併せて其の日常生活の方法を畧記せり而して斯は疑ひもなく長命を希望する人々に向つては一の新知識たるを失はざる可しと。

グウイドル卿、九十五歲、禁煙、室外運動、萬事に節制。

グリムソルブ卿、八十八歲、禁煙、節制。

ネルソン卿、八十二歲、禁煙、夙起、節制、醫藥を服用せざること。

ダブリユー、ハギンス男爵、八十一歲、禁煙、小量の肉食に牛乳。

ダブリユー、エル、ドリンクウヲーター男爵、九十二歲、禁煙、屋外運動、七時間睡眠。

メイヨル敎授、八十一歲、禁煙、嚴格なる菜食、運動皆無、一日の飮食費二片、朝は四時に起牀。視力健全。

チヨーチ、エス、キース博士、八十六歲、少量の喫煙及び飮酒、少量の肉、及び魚肉食、多量の牛乳。

ダブリエー、ビ、フリス八十六歲、一日に二食、葉卷煙草三本、ウイスキー酒茶匕一杯、規則正しき運動。

エツチ、チー、デウイス、八十二歲、禁煙、三回の

食事を充分にすること、規則正しき運動。
エフ、エス、バーデン男爵、八十六歳、七時間睡眠、少量の肉食及び葡萄酒。

以上列擧したる高齢者中の多數は禁煙者なりといふことは注意すべきことなりとす。

▲戰爭と出産兒に就て再び　我國にて年々出産する小兒の比例は男兒六分、女兒四分の割合なりしが此程醫科大學産科にて調査したる所によれば本年の出産は男兒七分女兒三分の割合なることは先きの本誌にも記載せしが尚明年は男八分女二分の割にて出産するならんとの說なりと而して戰爭のある前年は不思議にも女兒の出産多く昨年の比例は例年の反比例にて男四女六の割合にて日清戰爭のありし前年も女兒の出産多かりしといふ

●新消化劑(大根のヂアスターゼ)

東京傳染病研究所の助手佐伯矩氏の研究にかゝる大根の消化劑は消化不良に艱む人々の爲のみならず日本の如き食物性の食物が營養物の主となり居る國柄ては殊に一般の家庭に尤も必要あらうと思ひますから一寸かいつまんで咄きましやう

▲ヂアスターゼ　營養物の中には蛋白質も脂肪質も水や鹽類もあるが中にも消化の上に重なるものは蛋白脂肪澱粉の三ツであるソコで植物性の食物の主なる成分は澱粉質で之を消化させるには唾液と膵液とが必要であるが此ヂアスターゼと申すものは唾液の作用と同じ様な作用を以て居るソレで大根及大根のしぼり汁の中には一種のヂアスターゼが含まれてある事に氣付き段々研究の結果同氏は遂に粉末に仕上げた品を製出されたのであるか先づ手近なる

▲大根おろし　コレは食物消化に大なる功のあるものであるが澱粉質をよく消化させるのは口から咽喉及び食道を通ッて胃の腑へ入り込む迄の間である尚又夫れ以上にヂアスターゼの効能を高めようとするには大根おろしに醬油味噌等を混和てお用ゐなさい醬油や味噌は既に幾分かこのヂアスターゼを含んで居るからです併し

▲用ひ方により効能なし　飯をたべ終ッてから大根おろしを食しましたところで實に效力の少ないものであるから飯を一箸口に入れたなら直ぐに大根おろしを食し口中でよく嚙みまぜる樣にするがよい尚一ッの注意は大根を煮たり又大根おろしを熱い飯へかけて食べたりしては效力のへるもので熱に抵抗する力の弱いものであります

▲偶然なる俗説　古しから大根おろしは習慣上しらず知らず消化劑として用ひられて居る（うどん）（そば）などに大根おろしを添へ又新年には鱠をドコでも作るこれは正月には餅を多く食べますから自然の消化劑となッて居るのであると云ふ人もある或老人などが大根おろしを用ゐると飯がすゝむと云ふものゝあるはの右の理によるものらしい

▲大根は汁の方が必用　大根は汁の方が必用なので汁をシボリ棄てるのは實に無益なことで弦齋居士の食道樂にも餅を切るに先づ庖丁でザクリと一度大根を切り夫れから餅を切り一度切ッては餅を切れば庖丁の刄へ餅がつかないと云ふのも矢張りこのわけで

▲牡蠣と大根おろし　世俗牡蠣の酢へ大根おろしを添へる事です是れは極めて結構なことで牡蠣にはグリコーゲーンと稱する一種の動物性澱粉が大量に含まれてある夫れがヂアスターゼの爲めに容易く消化されるからであります

▲大根の良否　同じ大根でも鬆のあるものは効能が薄いので夫れと食する分量も又尤も注意すべきことで自身は營養分に乏しいものであるが他の物に交ぜてたべれば非常に消化の効のあるものであるから只むやみに澤山たべたところでなにもならない過食しては却ッて有害になる詰り大根おろしは間接的のものであることを忘れてはならぬ云ふてである

▲人の嫌ふ病　最近内務省の調査によると癩病患者の統計は全國の總數三万〇三百五十九人で此系統の家は男女併せて實に九十九万九千三百人の多數で

ある各之を各府縣につき人口(男女とも)二万以上を有するものを記せば

	血統系を有する者	現患者
兵庫縣	六、二六八六	一〇五四
熊本縣	五、二〇四五	二七六五
宮城縣	五、〇五三九	六二八
愛知縣	四、九三四〇	一一〇四
岐阜縣	四、八七九六	八一三
佐賀縣	四、二五三〇	八三三
和歌山縣	三、五二七三	三八五
新潟縣	三、二七六三	六三六
岡山縣	三、二三一二	五六二
廣島縣	三、二〇八一	五四八
山形縣	三、一三六一	四七八
山口縣	二、九九四六	八〇三
愛媛縣	二、七二八四	七八八
福岡縣	二、六〇〇四	一四三五
三重縣	二、五六九六	六四八
栃木縣	二、五四一七	六二一
香川縣	二、三九一七	四四五

以上の外の各府縣は山梨縣下の千七百九十一人(血統系を有する男女數)を最少數となし四千より一萬五六千の間にあるが我東京に癩病者の系統を有するは一万二百六十六人あり現に癩病に罹れるは二百四十六人あり全國中血統家系を有せざるは岩手縣のみなるは洵に珍しきことなりと恐るべし

▲熊本の清正公　熊本には清正宮の本元があッて多くの患者が集る何うい ふ關係か癩病患者は日蓮宗のものが多い團扇太鼓と癩病とは頗る縁が深いようで一ッには此清正宮へ向けて參籠するものが多く爲めに追々縣下に傳播させたものであらうとの事です尤も氣候の溫暖と魚類の暴食などは一ッの原因であらうといふ今にも何にとか撲滅の策を講じないと實に國家の信用にも關するとゝなりましやう何にとか早く法律を定め大に救濟法を講して患者は悉く離隔するやうにして此蔓延を防ぎたいものです

▲陸相の衛生訓示　傳染病の豫防に關し寺內陸軍大臣より今回左の訓示を發せられたり

傳染病の豫防に關し訓示せしこと一再に止まらず是れ疫病の軍隊に及ぼす兇害の頗る寒心すべき者あるを以てなり昨年は各衛生部隊長以下の盡力に依り幸に事なきを得たりと雖近來ペスト有毒國

東京其他に發見し腸窒扶斯流行性脳髄膜炎漸く諸方に萌發し一方に於て新兵補充兵等軍隊衛生上の訓練に乏しきもの營内に密集するが故傳染病豫防上最も警戒を要するのみならず併合の各地に收獲せらるゝもの又病毒を輸入するもの多し況んや時機漸く季に向ひ赤痢コレラ等の發生し易きに於てをや今にして大に防疫の準備を整へ病毒の來襲を防ぐに非らずんば將さに不測の禍害を釀し一時局に影響する所大ならんとす各官宜しく此點に留意し殊に各部隊長戒飭すると同時地方官憲と協商し以て軍隊の健康を保全することに努むべし

▲酒と傳染病　酒を飲む人は酒毒のためにからだを弱めますから最近の統計によるとコレラ病者の中三百三十六人の内で大酒家が百四十人恰んど半分程で禁酒家には僅かに二人で腸窒扶斯患者百人の中飲酒家は九十一人で禁酒家は十九人二分であるそうです又狂水病などの豫防接種でも酒の好きなものは其効がない況んや「マラリヤ」、黒死病、肺炎等のあらゆる傳染病には酒を呑む人の方が大部分を占めて居ッて又なほり方も酒を好まぬ人に比べると一段と悪い獨逸が南洋に殖民して常に失敗するは飲酒の爲めに傳染病に罹るもの多く之に反して酒を呑まぬものは土人よりも却ッて強壮であるといふことをたしかめたといふ戰後は朝鮮に滿洲に或は南洋に殖民を圖らねばならぬ國運を十分に發揮させようていふには先づ禁酒を斷行するのが目下の急務であると片山博士の談に見へた

▲酒と花柳病　淋病患者なり梅毒患者なりの多くに就て調べて見ると十中の九までは飲酒家であッて此等の人には經過が極めて悪るい殊に花柳病に罹るのは酩酊の時に罹るのが多い印度兵が花柳病の災厄を漸次に減退しつゝあるのは要するに禁酒運動の効果であるといふ事です酒の害は醫學上から申すとドノ方面にも有利なものとは言はれません

▲トラホーム豫防法　トラホームは近年に至り頻りに傳播甚しく此際學校と家庭と相連絡して豫防し撲滅の策を講ずるは尤も急務なり

一、教室内は採光換氣を佳良ならしめん爲煙塵埃の入らざる樣注意すべし
一、教室體操場食堂廊下等床板に油を塗り日々濕布にて清拭すべし即はち掃除すれば塵埃飛揚すればなり
一、生徒に洒掃せしむることを廢止すべし
一、遊戯場は屢々撒水し塵埃の飛揚を防ぐべし

一、トラホームは固より結膜炎と雖ども傳染するを以て受持教員は摂生及治療の必要を患兒及父兄に諭示すべし

一、患兒の使用する机腰掛體操器械布巾器等は悉く區別し毎日生徒の退出後適當の消毒を行ふべし

一、可成的場所の許す限は患兒の席と健眼の生徒は隔離すべし

一、患兒は課業時間外眼を清洗せしめ其水は直に棄却すべし

一、患兒眼脂分泌の盛なる時は最も傳染の危険なる時期なるを以て一定期間休學せしむべし　(日々)

▲類似黒死病發生詳報　廣嶋市に類似黒死病の發生せる事は各新聞の報する處なるが尚其詳況を報道せんに去る五日戰地より送還して廣嶋市皆實村なる豫備病院第六分院内へ収容されたる歩兵一等卒石原梅太郎(廿二)と云へる者収容當時は胃腸加答兒との診斷なりし所十日午前十時より發熱し同午後五時三十分同第四分院附堀田軍醫の診察に依りて始めて類似ペストと診定され同日午後八時二十分終に死亡したるを以て同室内に在りたる看病人廣嶋市小塚町看病人管岡勝太郎(三十四)同町雇婦若狭イチ(十九)松川町雇婦池内八重子(十八)の三名の居宅及び赤十字社救護班宿舍たる段原村松本萬兵衛支店には消毒法を施行し交通を遮斷することゝなり其他之に關係ある家と認められ何れも交通遮斷を行ひしといふ

▲東京府下にペスト發生　右書き終る時飛報あり深川蛤町尾崎某は動物試驗の結果いよ〳〵眞症と決したり一大恐慌は來れり各人の御注意〳〵

▲同仁會の役員選擧　同仁會にては先頃理事會を開き常務役員の選擧を爲したるが會長に大隈伯、副會長に片山國嘉氏を庶務理事に栗本庸勝氏を會計理事に後藤節藏氏を選擧したり尤も平常會務に付ては山田烈盛氏專務理事として擔任盡力するよし

▲天然痘流行の兆あり　下谷、淺草の各區に既に患者あり今亦麹町に發生し戰地及び牛莊方面との關係よりして愈々流行するに至らんとの虞あるより東京府及び警視廳に於ては近々五十歳以下の男女には悉く種痘を勵行すべき旨の告諭を發することに確定せりと尚ほ之と同時に市教育課に於ても就學兒童に種痘

斷行すべき旨各小學校に訓達すべしとなり

▲日本神經學會の總會　本月二日同會は帝國大學法科第三十番講堂に於て總會を開き演說及神經學に關する圖書藉標本器械等の陳列あり正午に懇親會を開き午後より再び演說に移り午後五時三十分閉會せしが翌三日は斯學に關係ある場所の參觀を許されたり



●ウード夫人の送別園遊會

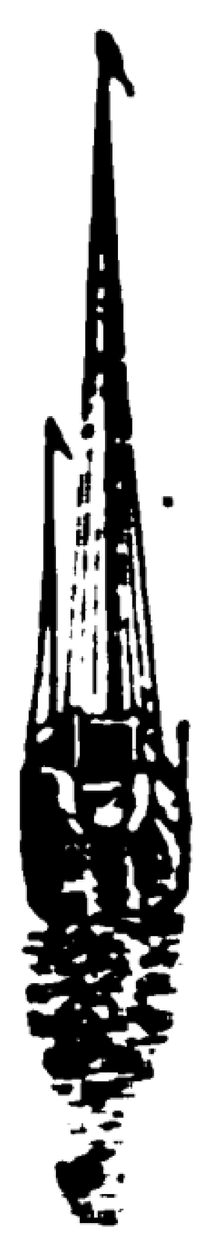
去る十三日出征軍人家族慰問會の催しにて米國公使館附武官夫人の爲め小石川砲兵工廠內後樂園に於て盛なる園遊會を開かれたり同夫人には慰問會創立の際より理事の任を負はれ盡力せられつゝありしが近日歸國せらるゝが爲め斯くは企てられしものなりと云ふ。

當日は朝より曇天にて空模樣も餘り宜しからざりしが來會者は無慮七百餘名に達しさすが外國夫人の爲め開かれたる會合とて英米公使夫人白耳義公使夫妻を始めとして外國夫人五十餘名を見受けたり何れも愉快げにお世辭に巧みにて交際上手なるには何時も感服の外なしそれは偖て置き今當日の順序を略記せんに門を入りて數步の處には濱尾、鳩山、山脇其の他の役員諸氏會員を迎へ唐門の傍らには紀念章及び茶菓の切符交換所を置き涵德亭を其の會場に充て又池を隔てゝ九八家には休憩所を置きて紅茶の用意を設けられたり

午後二時頃ウード氏夫妻には鳩山夫人其の他の案內により來會せられ一同會場へ參集するや理事長毛利侯爵母堂同理事大山侯爵夫人の謝辭ウード夫人の答辭ありジャッパンタイムスの頭本氏之が通譯を爲し次に毛利男爵の挨拶及び會報等あり右終りて一同茶菓の饗應あり何れも愉快げに談話に時を移すもあり或は池邊に逍遙し或は淸水堂八卦堂に登りて眺望するもあり園內の櫻は今や咲きも殘らず散りも初めぬ風情にて貴夫人令孃の其の間に逍遙せらるゝ有樣は

如何にも淸雅なる園遊なりきウード氏夫妻及び他の外國夫人にも殊の外滿足されたるもの丶如く歸途には「タイソウ、オモシロ、ゴザイマシタ、サンクユー」など丶笑顏つくりて歸へらる丶ものも多く極めて盛會なりし當日は午後三時頃より時々少雨を交へたるも散會までさしたるとのなかりしは眞に同會の幸なりき

因に記す、會員に頒ちたる紀念品はウード夫人肖像の輪はがき及び錨に日米の國旗を交叉し櫻花を其の間にあしらひたる銀製の紀念章にしてウード夫人に寄贈したるものは純金製にして黑塗の箱に納めたる極めて高尙なる品なりき、



大日本婦人衞生會記事

本會四月例會

四月一日第一土曜日例會を神田區一ツ橋通女子職業學校內に於て開く醫學士寺田織尾君には毛髮に就いて（附婦人結髮）と云へる演題にて毛髮に關する諸種の疾病を講說せられ延いて婦人結髮の事に及び古來よりの結髮を調査して今日の束髮と對比して大に美術的注意を促し次に醫學士澄川德君には「ジフテリーの話」と云へる演題にて同病治療法發明の起源より其症狀豫防治療法等に說き及ぼし四時過ぐる頃散會せしが此日や朝來の雨天にて會員の出席も少かりしが役員には濱尾副會長、羽田、宮本、田村、鳩山、長谷川、高木、三浦、（出席順）の諸氏なりき

●去月本會總會に於ける役員改撰の結果大略從前の通なるも左の如く二三の交迭ありたり

會長　鍋島侯爵夫人　副會長　濱尾作子

幹事　鳩山春子　羽田三緒子　岡田德子　高木かう子　山木多穗子　松平芳子　三浦敏子

評議員　石川さだ子　○岩下ゆか子　○濱田捨子　○長谷川仲子　仁禮壽賀子　四升子　穗積歌子　○土肥多越子　緒方悅子　岡山とし子　○小川孝子　加藤男爵夫人

片山かめ子　〇吉武輝枝子　丹波貞子
高橋孝子　田村きよ子　相馬睦子
南部男爵夫人　中濱芳子　松井子爵夫人
岸　澄子　三宅藤子　宮本榮子
宮下咲子　（イロハ順）　〇印ハ新任役員

▲本會主唱に係る傷病者帽子寄送の事は澁谷分院に於て非常に感謝せられ尚ます／＼御寄送あらんことをと其後會員及各支會よりも役員諸氏の盡力によりて左の如く多數寄送せらるゝに至りたるは本會々長の滿足せらるゝ處なり今左に其芳名を掲げて義送せられし方々に鳴謝す

●傷病者帽子寄附

本會取扱

一金五圓　相州大磯　西　升子
一金壹圓　千葉縣夷隅郡勝浦町　數見恒子
一金壹圓　本郷區駒込病院内　杉本りせ子

●山形支會報告

三月例會

三月十一日第二土曜日午后壹時三十分より女子師範學校内に例會を開く今回より當支會に割烹實習を開始し右終りて二時半より講話に移る古閑醫學士の前回の續きなる月經時の攝生に就て懇篤なる講話あり四時半散會を告げたり此日來會するもの會員及傍聽生共約百餘名なりき

▲傷病者帽子寄贈の事に付左の如く申越されたり

傷病者帽子寄贈の事は當支會にても大に御贊成申上先頃來幹事一同會員諸婦を勸誘の結果左の諸婦には孰て御寄附相成候儘取纏め御送附云々

右は本會支會の團體として第一着に寄贈せられたるものなり今左に其芳名を列記せん

一金四拾七圓八拾八錢也　山形支會々員

內譯

一金壹圓五拾錢　帽子三個分　支會長　田中きみ子
一金壹圓五拾錢　仝　副會長　岩木しげ子
一金壹圓五拾錢　仝　會員　西野きぬ子
一金壹圓五拾錢　仝　仝　佐藤たみ子
一金壹圓五拾錢　仝　仝　堀　しか子

一金壹圓五錢	仝	仝	林ちせ子
一金壹圓五錢	仝	仝	國井よしゐ子
一金壹圓五錢	仝	仝	若林つれ子
一金壹圓五錢	仝	仝	蓋科なみ子
一金壹圓五錢	仝	仝	後藤まき子
一金壹圓五錢	仝	仝	橋口さだ子
一金壹圓五錢	仝	仝	山岸きみ子
一金壹圓五錢	仝	仝	佐治とよ子
一金壹圓七拾五錢	仝五個分	仝	關根たか子
一金壹圓七拾五錢	仝	仝	北島もと子
一金壹圓七拾五錢	仝	仝	友田ため子
一金壹圓七拾五錢	仝	仝	古關こと子
一金壹圓七拾五錢	仝	仝	長谷川こう子
一金壹圓七拾五錢	仝	仝	三浦しげ子
一金壹圓五拾八錢	仝四個分	仝	村井こと子
一金壹圓五拾錢	仝	仝	長谷川こと子
一金七拾錢	仝二個分	仝	津田ゆき子
一金七拾錢	仝	仝	林せん子
一金七拾錢	仝	仝	關原かめゐ子
一金七拾錢	仝	仝	高橋まさ子
一金七拾錢	仝	仝	菅井ひさ子
一金七拾錢	仝	仝	大森まつ子
一金七拾錢	仝	仝	高橋やよ子
一金七拾錢	仝	仝	濱尾まさ子
一金七拾錢	仝	仝	高山まち子
一金七拾錢	仝	仝	遠山しと子
一金七拾錢	仝	仝	細谷わか子
一金七拾錢	仝	仝	中村やよ子
一金七拾錢	仝	仝	工藤せい子
一金七拾錢	仝	仝	樋口きん子
一金七拾錢	仝	仝	桓森えい子
一金七拾錢	仝	仝	佐藤えん子
一金七拾錢	仝	仝	西村なとわ子
一金七拾錢	仝	會員外	河合よね子
一金參拾五錢	仝一個分	會員	紺野さだ子
一金參拾五錢	仝	仝	黒柳きぬ子
一金參拾五錢	仝	仝	横山ちよ子
一金參拾五錢	仝	仝	生沼ふじ子
一金參拾五錢	仝	仝	國井さだ子
一金參拾五錢	仝	仝	大谷かづ子
一金參拾五錢	仝	仝	平吹みな子
一金參拾五錢	仝	仝	高宮あと子
一金參拾五錢	仝	仝	三橋みつ子
一金參拾五錢	仝	仝	松村いく子
一金參拾五錢	仝	仝	池田みつ子
一金參拾五錢	仝	仝	中村まつよ子
一金參拾五錢	仝	仝	安藤わか子
一金參拾五錢	仝	仝	梅林寺ちよ子
一金參拾五錢	仝	仝	井出けさ子
一金參拾五錢	仝	仝	佐々木さと子

一金參拾五錢　仝　仝　勝野せい子
一金參拾五錢　仝　仝　古川とき子
一金參拾五錢　仝　仝　鈴木せい子
一拾參拾五錢　仝　仝　染谷なか子
一金參拾五錢　仝　仝　片山かつ子
一金參拾五錢　仝　會員外　河合ゑい子
一金參拾五錢　仝　仝　鈴木ひさ子

▲宇都宮支會々員寄送

一金六圓　支會長　菊池より子　副會長　古口とみ子
一金貳拾四圓　會員有志者

以上合計金參拾圓

右貳拾四圓寄送者芳名

菊池支會長　古口副會長　高橋さだ子
行森保司子　石田つね子　鈴木てる子
稲井よし子　須賀榮子　久保ため子
長野順子　米山きく子　笠原小常子
中里安子　神谷志賀子　水野しげろ子
高崎うた子　調所越路　大橋のぶ子
松本とう子　江原きん子　齋藤よし子
長尾いく子　田野邊ふじ子　篠崎あい子
原ちせ子　宇津くめ子　飯塚せい子
中村ふみよ子　白仁まさ子　小田切とり子
戸田とく子　本田さと子　星みな子

鈴樹よし子　長谷川千代子　渡部吉代子
清洲とみ子　神野まつ子　中村ふさ子
田中志ん子　田野きく子　上野かね子
佐久間みの子　堀よね子　大久保つる子
田中幸子　篠崎やす子　富岡來子
和久くに子　增淵なみ子　青木しか子
保坂らく子　增田ちよ子　齋藤しん子
久保壽美子　阿部てい子　齋藤ゑん子
町田まち子　阿久津いと子　山口きよ子
宇野のぶ子　淺山きん子

●高崎支會報告

第三十一例會

三月五日（日曜）第三十一例會を高等小學校內に開く午后二時開會第一席塚越正六君「子癇に就て」と題し本症は姙婦殊に初產婦に來る病なりと說き起し其原因症候を詳述せられ此の恐るべき病症を未發に防ぐ注意を懇篤に述べて會員諸婦に感動を與へられたり第二席乾宗太郎君「臺灣北部の視察」と題し自家渡臺中に於ける臺灣の時候、家屋、生活狀態幷に實見したる種々の事柄を詳述せられたり第三席高草木

又吉郎君「子宮及卵巣の解剖」と題し子宮卵巣輸卵管の精細なる解剖圖を示され尚卵巣中に卵の生成する經過並に各器の生理作用と月經の來る理由を詳述されたり時に時針器四時閉會を告ぐ

講師　小林春造君
同　關　龜齡君

出席役員は　星野、三橋、齋藤、相川、松本、稻垣、



●新潟支會報告

二月及三月例會

二月例會は仝月二十六日午後一時より同市師範學校附屬小學校に於て新潟婦人教育會と聯合の上例會を開き講師及演題は左の如く出席者九十餘名

一 神經質　醫學士 池原康造君
一 日露戰爭後に就て婦人の心得　安藝耕野子

三月例會　仝月十二日午後二時より右仝所に於て開會講師及演題左の如し

一 國民衛生の一端　醫學士 澁川正男君
一 鼻病と智育との關係　黑岩龜三郎君

●役員異動　前號雜誌に幹事和田くに子及湯原じゆん子辭任の事を掲載せしが其後支會よりの通報によれば和田くに子には御良人の官命を帶び韓國へ出張せらる事となり去月四日仝地出發せられし爲めの辭任にて湯原夫人には病氣の爲め已むを得ず是又辭任せられたるなりといふ

●新潟支會に於ける恤兵慈善演技會收支決算報告

○收入之部

一金壹千圓四拾參錢五厘　收入總額

內譯

金百四拾參圓五拾錢　特別寄附金
八百四圓拾八錢七厘　通券ニ對スル寄附
金五拾圓　活人畫賣却代
金貳圓七拾四錢八厘　雜收入

○支出之部

一金五百拾四圓拾六錢八厘　支出總額

內譯

金貳拾九圓七拾八錢　地方出演者宿泊料
金參拾九圓九拾九錢　出演者費用
金四拾九圓四拾九錢貳厘　活人畫費用
金拾四圓五拾錢　仕舞費用
金六拾九圓參拾四錢　劇場費用
金六拾九圓貳拾錢　菓子費用
金貳拾貳圓八拾七錢　新聞廣告料
金拾四圓六拾九錢　郵便電信料
金參拾六圓七拾錢八厘　役員地方出張旅費
金拾壹圓六拾五錢　書記其他ノ報酬
金參拾四圓八拾八錢貳厘　人力車賃
金貳拾九圓貳拾參錢　人夫賃
金貳拾圓也　印刷物費用
金七拾壹圓八拾參錢六厘　雜費

差引
金四百八拾六圓貳拾六錢七厘　純收入

內譯
金貳百圓　陸軍恤兵部へ寄附
等壹百圓　海軍恤兵部へ寄附
金壹百八拾六圓貳拾六錢七厘　新潟市軍人家族救護會へ寄附

特別寄附者芳名

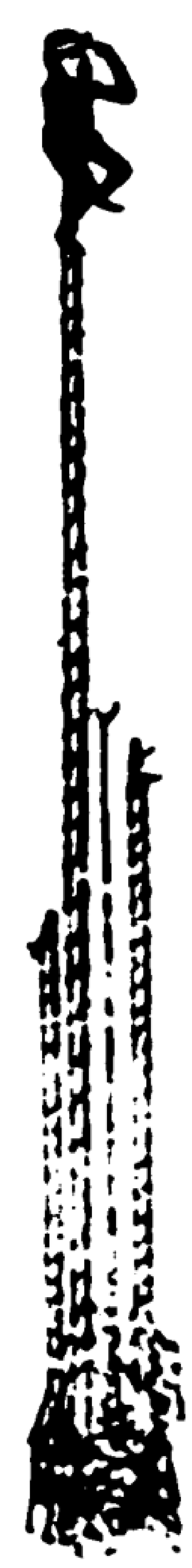
一金拾圓　本間新作
一金五圓宛　山口政治　川上佐太郎　山田又七　渡邊幸平　田巻あい子　田巻たつ子
一金參圓七拾錢　石塚三郎
一金參圓宛　櫻井市作　高橋さだ子
一金三圓六拾錢　產婆學校寄宿生
一金貳圓五拾錢　內田三省
一金貳圓四拾錢　燕同窓會
一金貳圓宛　梅木正衛　婦人教育會　阿部玄四郎　中村彌　古閑定　田代亮介　土田とめじ子　多田彌宏　稻田三之助　鍵富せつ子　小柴きく子　中村しげ子　和田茂睦　和田くに子　古閑初瀨子　若杉きく子　無名氏　廣川れん子　湯原元一　澁川正男　坂木いち子
一金壹圓〇五錢　福尾つや子
一金壹圓宛　河上茂雄　河上ふさ子　川西松衛　內田貞三　笠井よし子　笹村粂子　松野なほ子　田中まち子　產婆學校通學生　阿部きく子　江部大作　橫山太平　花輪しげ子　見方勘三郎　江口照造　鍵富こう子　本間なか子　大野彥然　養德婦人會　神尾睦　野口謙造　中根仙五郎　佐柳千代子　木元信雅　佛教婦人會　木ノ井喜六　渡邊くら子　田代てふ子　加藤かう子　吉村きん子　中村きん子
一金八拾錢　吉田粂
一金五拾錢宛　諸星むら子　五十嵐佐濟　清水中四郎　田宮從義　金子庄作　小風知佐　神月豐　阿部敬　萬千野定之助　堀內泰之進　稻田甫吉　福永兵太郎　北見東一郎　武市啓　山下貞賓　芳屋方佐々某　長谷川せん子　棚橋末藏　吉野庄平　谷みい子

長谷川一詮　廣川しづ子　廣川菜

一金貳拾錢宛　石黒一郎

一金五錢　七里令環

（餘白なきを以て通券取扱者芳名は次號に讓る）



●本會入會者

○日本橋平山照子紹介

●京橋區木挽町九ノ三十一　通常會員　荒井たに子

○本郷關計無子紹介

●牛込區揚方町五番地　通常會員　佐野貴見子

○千駄ヶ谷西澤好子紹介

●小石川區久堅町七十四　通常會員　早速菊子

●會員種類變更

●京橋區　通常會員　特別會員ニ改　黒河内朝子

●高崎支會入會者

○天利いし子紹介

●高崎市相生町　通常會員　湯淺つね子

○長井まさ子紹介

●仝市嘉多町　通常會員　小黒よね子

○神宮くら子紹介

●群馬郡長野村西新波村　通常會員　岡田せん子

○宮崎よね子紹介

●高崎市鞘町　通常會員　羽生田千代子

●仝市眞町　通常會員　加藤まち子

●仝市白銀町　通常會員　須田三千代子

●多野郡藤岡町　通常會員　山田せい子

（三月分本欄訂正）

●西脇つみ子改　西脇みつ子

●長坂たく子改　飯塚とく子

右住所元紺屋町ノ元ヲ脱ス

●秋元たよ子改　秋元とよ子

●芥澤とく子改　芥川たつ子

●新潟支會入會者

○大橋とし子紹介

●仝市下旭町　通常會員　家田てい子



●轉居

▲會員諸姉御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所宛御一報相願候

●臺灣基隆驛傳社支店へ　大坪廷子

●廣島縣宇品碇泊陸軍病院船ロヒラ乘組　三澤さわじ子

●本郷區森川町一番地中通二四五號へ　横山露子

●麹町區錢瓶町番外一番地松井氏方へ　大谷てふ子

●山口縣豐浦郡長府村江下へ　植村妙子

●麹町區三番町七十五番地へ　久保登茂子

●芝區金杉新濱町一番地へ　村上靜子

●京都市一條通室町入ル上ル市松町へ　河村たま子

●麹町區永田町島津邸平山氏方へ　高塚まち子
●麻布區市兵衞町二ノ八十九へ　吳　悠子
●京橋區南槇町へ　磯部つや子
●相州鎌倉大町原二百九十三へ　福島鎚子



●交換寄贈雜誌

●日本赤十字　京橋區築地二ノ二十一　日本赤十字發行所
●日本衞生週報　甲府市佐渡町十五　日本衞生週報社
●日本婦人　府下澁谷村字常磐松御料地内　帝國婦人協會
●新潟縣衞生會誌　新潟縣廳内　新潟縣衞生會
●日本皮革時報　本所區表町五十七　益世社
●日本の家庭　神田區表神保町二　同文舘
●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會
●東京藥事新報　京橋區桶町四　東京藥事新報社
●東京教育雜誌　神田區錦町一ノ三十　東京教育雜誌發行所
●中央實業新報　大阪市北區天神橋筋六丁目　中央實業新報社
●をんな　麹町下二番町三十七　大日本女學會
●大坂醫學會雜誌　大坂市東區淡路町一ノ卅八　大坂醫學會
●家庭新聞　熊本市北新坪井町百卅一　家庭新聞社
●家庭雜誌　麹町區中六番町十　由分社
●家庭　東京巣鴨二二五五　家庭社
●萬問答　茨城縣筑波郡板橋村　萬問答社
●大日本婦人教育會雜誌　麹町區永田町一ノ十九　大日本婦人教育會
●大日本私立衞生會雜誌　京橋區宗十郎町七　大日本私立衞生會
●體育　府下荏原郡大井村　日本體育會
●たきもの　四谷區新堀江町一　東京燃料研究會
●通俗衞生　大坂西區土佐堀通三ノ廿九　大坂私立衞生會

●牟婁新報　和歌山縣西牟婁郡田邊町　牟婁新報社
●藥學雜誌　牛込區下宮比町八　日本藥學會
●藥石新報　大坂西區江戸通三ノ卅六　藥業新報社
●藥業公論　府下内藤新宿北裏町　藥業公論社
●藥業時報　神田區鍛冶町廿一　藥業時報社
●經濟新報　麹町區永田町二ノ七十　經濟新報編輯部
●婦人世界　大坂南區末吉橋通四丁目　浪華婦人會
●婦女新聞　牛込區東五軒町四十一　婦女新聞社
●婦人新報　赤坂區仮坂町五　婦人新報社
●婦人と子ども　本郷區女子高等師範學校内フレーベル會
●婦人　神戸市三ノ宮町一丁目　婦人協會
●福田會月報　麻布區笄町百三　福田會育兒院
●國家學會雜誌　本郷區富士町一　國家學會雜誌發行所
●工手の母　大阪北區西野田新家西ノ町　工手の母新聞社
●衞生報知　神戸市相生町一ノ廿七　私立神戸市衞生會
●越佐教育雜誌　新潟市東仲通一番町　越佐教育雜誌社
●英學生　小石川區小日向臺町三丁目　東西社
●衞生新報　下谷區池ノ端仲町十九　衞生新報社
●愛國婦人　麹町區飯田町一丁目　愛國婦人發行所
●あかつき　埼玉縣埼玉郡越ヶ谷町　曉社
●產科婦人科學雜誌　日本橋區濱町三ノ七　產科婦人科學會
●草樂新聞　大坂市南區齋橋筋　草樂新聞社
●產婆學雜誌　日本橋區濱町三ノ七　日本產婆學協會
●兒童教育　神田區末廣町十　兒童新聞社
●神經學雜誌　小石川區駕籠町東京醫科大學精神學教室内　日本神經學會
●廣島衞生醫事月報　廣島市猫屋町　廣島衞生醫事月報社
●ひじり慈門實鑰　愛知縣岡崎町貴生　慈善堂發行所
●飲料水の注意　大坂市東區高津南ノ町　村井純之助
●村井水こしの記　仝上　仝上

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回（第一日曜日）講話會を開き毎年一回（五月）總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし 本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出つべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回（第一日曜日）講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會 米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を増進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地 塔殿方に置く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條 毎月一回（第二日曜午後一時より四時迄）講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に届出べし

但し已納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として 特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 會員及員外篤志者より金品の寄附あるときは役員協議の上特待員又は贊成員となすへし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員の質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條 特に支會則に掲げざるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

私立大日本婦人衛生會

茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望んとするには必や衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に傚ひて更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三十錢以上通常會員は一ヶ月拾五錢を納むるを●男子にして本支會の趣旨を賛成する者は之を賛成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。(死亡等は親戚知人より通知せらるべし)●本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演説又は之に關したる實驗談をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等を誘引して參會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるべし)●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●茲に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地　茨城支會

私立大日本婦人衛生會

高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條　當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するを目的とす●第二條　當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條　當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條　本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條　會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條　總て會費の徴收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上宛前納すべし●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條　特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

●事務所　高崎市寄合町五十番地　高崎支會

竹中成憲先生著書中素人諸君に適するもの

▲肺結核療法	〔總ての療法悉集めあり〕		貳圓四拾五錢
▲肺結核豫防法	〔豫防攝生の方法を示す〕		參錢郵劵拾八枚
▲産婆學（再版）	〔敎授受驗の目的に適す〕	同	參拾枚
▲ペスト（黒死病）	〔原因徴候及豫防法を示す〕	同	九枚
▲肥滿の療法	〔ふとりたる人やせる法〕	同	九枚
▲救急法	〔怪我の急病應急の手當〕	同	拾貳枚
▲衞生寳典	〔内科諸病を一々説明す〕	同	廿六枚

（皆郵稅共）

東京市本郷區春木町貳丁目 半田屋
東京湯島天神町貳丁目廿六 鳳文堂
東京市神田區鍛冶町四番地 誠之堂

速記應囑

事務所の特長は深切にして然かも迅速なるにあり○女流の會合にして男子を近け難き場合若くは著述家飜譯家等の爲めには特に女子の速記者をして之に當らしむ

麴町區富士見町五丁目九番地
佃速記事務所
電話番町四十八番

◎日本體育會體操學校女子部

客年麴町區下二番町成女學校内にて教授し來たりしが當四月より同區牛ヶ淵同會事務所内新學校舍に移轉し更に此際高等科普通科各三十名撰科若干名を募集す

因に本校は設立日尚淺きも文部省檢定試驗に次第せるもの及全國各女學校に教授するもの多し

高橋齒科醫院

東京日本橋區本町二丁目
（電話本局千六百六番）

診察時間　午前九時ヨリ午後五時迄

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

明治三十八年四月二十三日印刷及發行（毎月一回二十日發行）
婦人衛生雜誌第百八拾五號

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章
第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢
●第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第一號　七十錢（黑檢箱入送費九錢）
六十錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築上八幡町郵便取扱所）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈の事

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行人　山中鶴三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷人　渡邊智

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場印刷